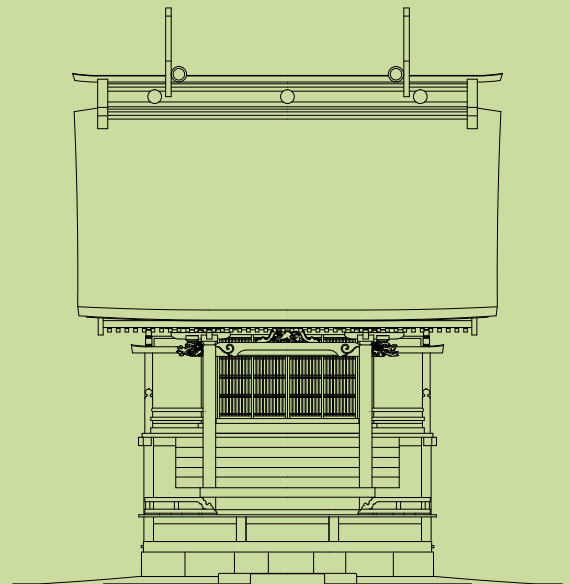
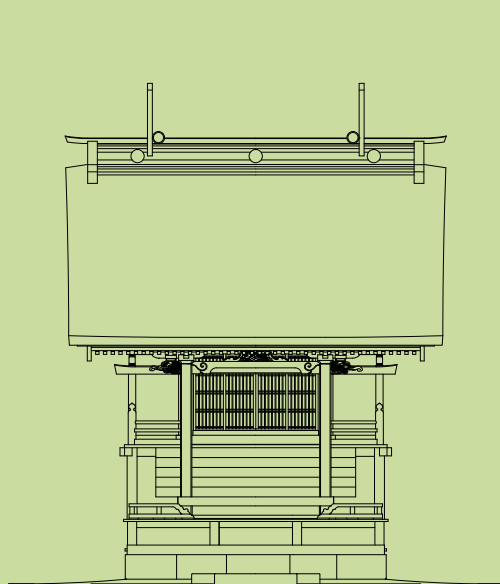




公益財団法人
和歌山県文化財センター 年報

埋蔵文化財発掘調査と文化財建造物保存修理の記録

2025





1 三郷八幡神社本殿



2 力侍神社本殿・摂社八王子神社本殿



3 観海閣



4 東照宮石垣

目次

令和7(2025)年度 受託業務一覧…………… 2

令和7(2025)年度 受託業務所在地図…………… 3

埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物整理・支援等

大芝遺跡の出土遺物等整理……………	4
森小手穂埴輪窯跡の発掘調査支援……………	5
井辺遺跡第100・102次発掘調査支援……………	6
津秦遺跡第24次発掘調査支援……………	8
根来寺遺跡の確認調査支援……………	9
八反田遺跡の確認調査支援……………	10
東郷遺跡の発掘調査支援……………	11
田辺市内遺跡確認調査等支援……………	11
白浜町内遺跡試掘確認調査及び工事立会調査等支援……………	12
県内遺跡発掘調査等事業に伴う確認調査等支援……………	13
紀美野町内遺跡試掘確認調査及び工事立会調査等支援……………	13
広川町内遺跡工事立会調査等支援……………	14
上富田町内遺跡試掘確認調査及び工事立会調査等支援……………	14
近代の文化遺産詳細調査事業に係る鉱山関連文化遺産分布調査等支援……………	15
根来寺遺跡の出土遺物等整理支援……………	16
八反田遺跡の第2次出土遺物等整理支援……………	17
下里古墳の出土遺物等整理支援……………	18
金剛峯寺境内奥州南部家墓所調査支援……………	19
県立紀伊風土記の丘館蔵有形民俗文化財等整理支援……………	20
史跡金剛峯寺境内保存活用計画策定の部分支援……………	20

文化財建造物の保存修理技術指導

重要文化財 三郷八幡神社本殿の保存修理……………	21
重要文化財 濱口家住宅の保存修理……………	22
重要文化財 金剛峯寺山王院本殿の保存修理……………	24
重要文化財 雨錫寺阿弥陀堂の保存修理……………	25
国宝 長保寺本堂の災害復旧……………	26
重要文化財 角長(加納家住宅)主屋ほか10棟の防災施設設備……………	26
県指定文化財 力侍神社本殿・摂社八王子神社本殿の保存修理……………	27
県指定文化財 日神社本殿の保存修理……………	28
湯浅町指定 深専寺地藏堂の保存修理……………	28
名勝和歌の浦 東照宮石垣の保存修理……………	29
和歌公園観海閣の新築工事……………	31
史跡旧名手宿本陣 名手役所外周土堀等の復旧……………	31
登録記念物 菊池海荘宅跡土堀の機能維持工事……………	32
養源寺境内建物の実測調査……………	32

関連研究・資料紹介

和田岩坪遺跡第2次発掘調査出土木製品の保存処理の顛末……………	33
---------------------------------	----

普及活動

令和7(2025)年度の普及活動……………	37
-----------------------	----

センター概要

令和7(2025)年度 概要……………	40
---------------------	----

巻頭写真

- | | |
|--------------------|---------|
| 1 三郷八幡神社本殿 | 3 観海閣 |
| 2 力侍神社本殿・摂社八王子神社本殿 | 4 東照宮石垣 |

例言

- 1 本書は、公益財団法人和歌山県文化財センターが令和7年度受託業務として行った埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援業務、文化財建造物の保存修理技術指導業務・調査・技術支援、文化財の計画・調査支援及び普及啓発活動の成果をまとめたものである。
- 2 掲載した地図は、和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課が発行する「和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図」『和歌山県地理情報システム』<https://wakayamaken.geocloud.jp/mp/4>(和歌山県総務部行政企画局情報基盤課)(地図は、国土地理院発行の数値地図)の複製を一部加筆し引用した。
- 3 掲載写真・図面は、基本的に事業の実施に伴い撮影・作成したものであり、出典が異なる場合は個別に記した。また、本文中の所見は、調査・整理作業中のものであり、今後の作業の進展により変更する可能性がある。
- 4 原稿執筆は職員が分担して行い、文末に執筆者名を記した。編集・組版は、石丸彩・大給友樹が担当した。

令和7(2025)年度 公益財団法人和歌山県文化財センター受託業務一覧

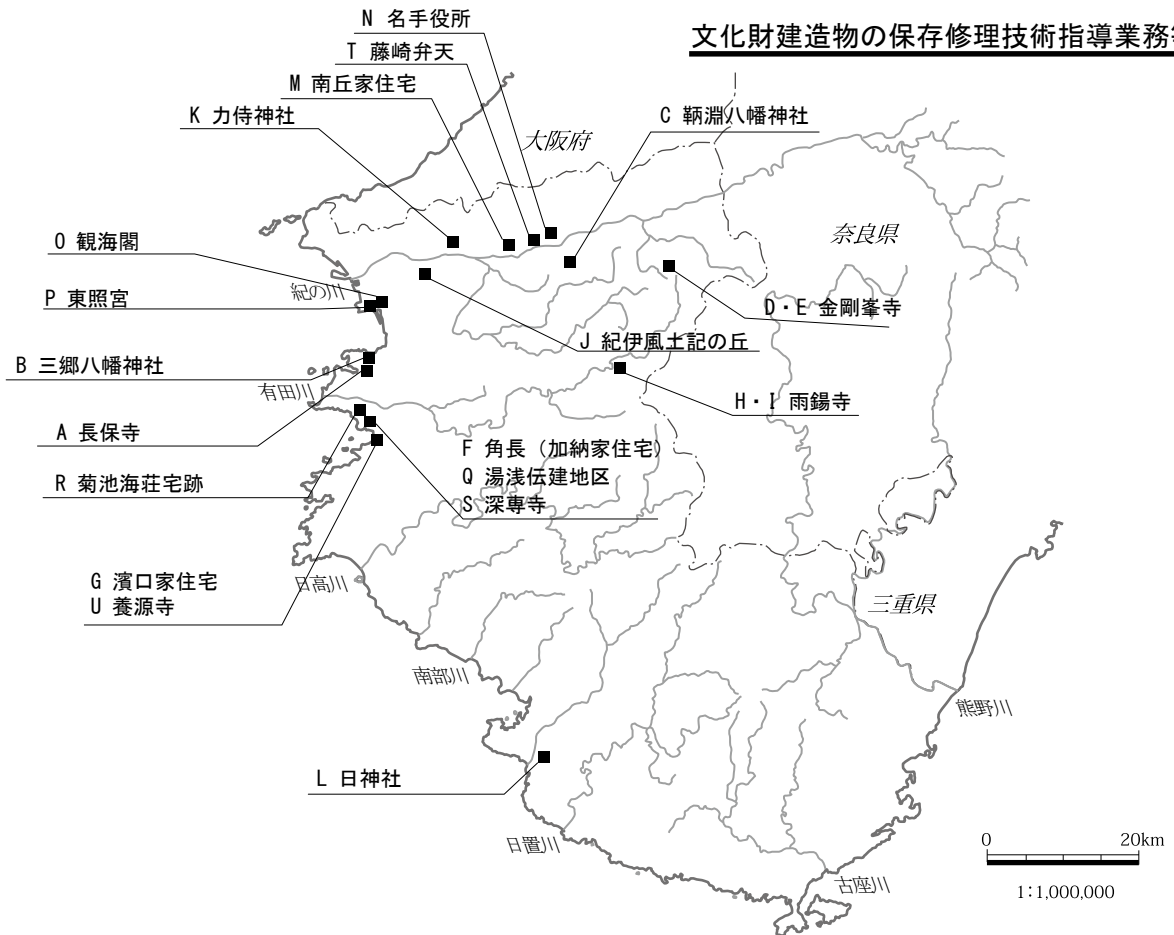
埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物整理・支援等業務					
	受託業務の名称	所在地	契約期間	調査面積	委託機関等
1	県営中山間総合整備事業佐井地区ほ場整備事業に伴う大芝遺跡出土遺物等整理業務	日高郡日高川町佐井	2025.04.10～ 2026.03.31	-	和歌山県
2	令和7年度岩橋千塚古墳群追加指定事業に伴う森小手穂埴輪窯跡確認調査等支援業務	和歌山市森小手穂	2025.10.31～ 2026.02.28	-	和歌山県
3	和歌山市内遺跡発掘調査等支援業務	和歌山市井辺、神前、 有家、和歌浦西	2025.05.16～ 2026.03.31	-	公益財団法人和歌山市文化 スポーツ振興財団
4	根来寺本坊新築工事事業に伴う埋蔵文化財確認調査等支援業務	岩出市根来	2025.07.01～ 2026.03.19	-	岩出市
5	八反田遺跡確認調査支援業務	新宮市木ノ川	2025.06.27～ 2025.09.30	-	新宮市
6	町道土生藤井線道路改良工事に伴う東郷遺跡発掘調査支援業務	日高郡日高川町土生	2025.10.01～ 2025.12.26	-	日高川町
7	田辺市内遺跡確認調査等支援業務	田辺市内	2025.06.12～ 2026.03.31	-	田辺市
8	令和7年度白浜町内遺跡試掘確認調査及び工事立会調査等支援業務	西牟婁郡白浜町内	2025.11.05～ 2026.03.31	-	白浜町
9	令和7年度県内遺跡発掘調査等事業に伴う確認調査等支援業務	和歌山県内	2026.03.06～ 2026.03.31	-	和歌山県
10	紀美野町内遺跡試掘確認調査及び工事立会調査等支援業務	海草郡紀美野町内	2025.07.19～ 2026.03.31	-	紀美野町
11	令和7年度広川町内遺跡工事立会調査等支援業務	有田郡広川町内	2025.05.02～ 2026.03.31	-	広川町
12	令和7年度上富田町内遺跡試掘確認調査及び工事立会調査等支援業務	西牟婁郡上富田町内	2025.06.24～ 2026.03.31	-	上富田町
13	令和7年度近代の文化遺産詳細調査事業に係る鉱山関連文化遺産分布調査等支援業務	和歌山県内	2025.09.19～ 2026.03.31	-	和歌山県
14	市道比奈久保線交差点改良工事に伴う八反田遺跡第2次出土遺物等整理支援業務	新宮市木ノ川	2025.04.29～ 2026.03.31	-	新宮市
15	下里古墳出土遺物等整理支援業務	東牟婁郡那智勝浦町下里	2026.01.17～ 2026.06.30	-	那智勝浦町
16	令和7年度金剛峯寺境内奥州南部家墓所調査支援業務	伊都郡高野町高野山地内	2025.08.29～ 2026.01.31	-	奥野石材店
17	令和7年度県立紀伊風土記の丘館蔵有形民俗文化財等整理支援業務	和歌山市岩橋	2025.06.11～ 2026.03.29	-	和歌山県
18	史跡金剛峯寺境内保存活用計画策定部分支援業務	伊都郡高野町高野山地内	2025.07.01～ 2026.03.31	-	株式会社空間文化開発機構
文化財建造物の保存修理技術指導業務等					
	受託業務の名称	所在地	実施期間	棟数	委託機関等
A	国宝（建造物）長保寺本堂保存修理（災害復旧）技術指導業務	海南市下津町上	2025.09.01～ 2026.03.31	1棟	宗教法人長保寺
B	重要文化財（建造物）三郷八幡神社本殿保存修理技術指導業務	海南市下津町黒田	2025.04.01～ 2025.10.31	1棟	宗教法人三郷八幡神社
C	重要文化財（建造物）鞆淵八幡神社本殿・大日堂保存修理基本設計業務	紀の川市中鞆淵	2025.08.18～ 2025.08.29	1棟	宗教法人鞆淵八幡神社
D	重要文化財（建造物）金剛峯寺山王院本殿丹生神社ほか2棟保存修理技術指導業務	伊都郡高野町高野山	2025.04.01～ 2026.03.31	3棟	公益財団法人 高野山文化財保存会
E	重要文化財（建造物）金剛峯寺本坊大主殿及び奥書院ほか22棟耐震予備診断報告書策定業務	伊都郡高野町高野山	2025.10.10～ 2026.03.31	24棟	宗教法人金剛峯寺
F	重要文化財（建造物）角長（加納家住宅）主屋ほか10棟防災施設整備（建造物）（防災施設事業）に係る技術支援業務	有田郡湯浅町湯浅	2025.04.01～ 2026.03.31	11棟	N-E.E.D 設備・設計・監理
G	重要文化財（建造物）濱口家住宅主屋ほか11棟建造物保存修理技術指導業務	有田郡広川町広	2025.06.02～ 2026.03.31	12棟	一般財団法人 東濱口家住宅保護財団
H	重要文化財（建造物）雨錫寺阿弥陀堂保存修理基本設計業務	有田郡有田川町杉野原	2025.04.11～ 2025.08.29	1棟	有田川町
I	重要文化財（建造物）雨錫寺阿弥陀堂建造物保存修理技術指導業務	有田郡有田川町杉野原	2025.11.05～ 2026.03.31	1棟	宗教法人雨錫寺
J	県立紀伊風土記の丘重要文化財財商家等保存修繕設計監理技術指導業務委託	和歌山市岩橋	2025.09.24～ 2026.03.31	1棟	和歌山県
K	和歌山県指定文化財（建造物）力侍神社本殿・摂社八王子神社本殿保存修理技術指導業務	和歌山市川辺	2024.07.01～ 2025.11.30	2棟	宗教法人力侍神社
L	和歌山県指定文化財（建造物）日神社本殿保存修理技術指導業務	西牟婁郡白浜町十九洲	2025.09.25～ 2026.03.31	1棟	宗教法人日神社
M	市指定文化財（建造物）旧南丘家住宅主屋ほか2棟耐震・保存修理工事実施設計業務	紀の川市粉河	2025.08.02～ 2026.03.31	3棟	紀の川市
N	名手役所外周土塀等復旧工事設計監理業務	紀の川市名手市場	2025.04.15～ 2026.03.31	2棟	紀の川市
O	和歌公園観海閣新築工事設計意図伝達業務	和歌山市和歌浦中	2025.04.01～ 2026.03.13	1棟	和歌山県
P	和歌の浦歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業における東照宮石垣保存修理技術指導業務	和歌山市和歌浦西	2025.05.14～ 2026.03.31	-	宗教法人東照宮
Q	湯浅伝建地区保存修理技術指導等委託業務	有田郡湯浅町湯浅	2025.07.03～ 2026.03.27	-	湯浅町
R	菊池海荘宅跡土塀機能維持工事に伴う設計監理業務	有田郡湯浅町栢原	2025.08.15～ 2026.03.31	1棟	湯浅町
S	湯浅町指定文化財建造物深専寺地蔵堂保存修理技術指導業務	有田郡湯浅町湯浅	2025.12.11～ 2026.03.31	1棟	宗教法人深専寺
T	藤崎弁天整備報告書作成支援業務	紀の川市藤崎	2025.05.27～ 2026.02.27	1棟	紀の川市
U	令和7年度養源寺実測調査業務	有田郡広川町広	2025.11.04～ 2026.03.31	4棟	広川町

令和7(2025)年度 受託業務所在地図

埋蔵文化財の発掘調査・支援業務等



文化財建造物の保存修理技術指導業務等



大芝遺跡の出土遺物等整理

遺跡の時代：縄文時代・古代末～中世

所在地：日高郡日高川町佐井

調査の原因：県営中山間総合整備事業佐井地区ほ場整備事業

調査期間：2025.04～2026.03

調査コード：24-29・017

はじめに

大芝遺跡は、日高郡日高川町佐井に所在する遺跡で、大きく蛇行を繰り返す日高川中流域で発達した穿入蛇行谷沿い右岸の河岸段丘上に位置する。令和6年度の調査では、遺跡の中央部～北部を対象とし13,284.1㎡を発掘した。その結果、部分的ではあるが遺構面2面を確認し、第1遺構面では、古代末から中世にかけての掘立柱建物跡1棟や溝のほか、土壌墓群を多数検出し、また第2遺構面では、県内最多となる縄文時代後期の竪穴建物跡群を検出した。また、これら多数の遺構に伴い、多数の土器や石器が出土した。



大芝遺跡位置図 (S=1/20,000)

整理業務の内容

出土した遺物は、遺物収納コンテナ（容量28L／箱）計120箱である。縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶磁器、瓦（近世）、石器（石鏃、石錐、石皿、叩石、石材等）、鉄器（短刀、釘）、繊維製品がある。古代末から中世の遺物は少ないながら、土壌墓の副葬品とみられる、ほぼ完全な形の鉄製短刀が出土した。鉄製品や繊維製品は、出土した状態のままでは土中の塩分や乾燥により腐食が進行するた

め、保存処理を外部の専門機関に依頼した。また、縄文時代の遺跡の大芝遺跡の盛衰の経緯・背景等を含めた遺跡の評価を適正に行うためには、自然科学的分析に基づく絶対年代と考古学的成果を総合的に理解する必要があるため、出土した縄文土器に付着していた炭化物及び炭化堅果類の放射性炭素年代測定を外部の専門機関に依頼した。

整理作業として、出土遺物の水洗、注記、登録、土器の接合・補強・復元作業、出土遺物の実測、遺構実測図のトレースを実施し、報告書の一部原稿を執筆した。令和8年度は、遺物実測図のデジタルトレース、原稿執筆、挿図や写真の組版等を行い、令和9年3月に発掘調査報告書を刊行する予定である。

(濱崎 範子)



縄文土器の実測



保存処理を行った鉄製短刀

森小手穂埴輪窯跡の発掘調査支援

遺跡の時代：古墳時代後期
所在地：和歌山市森小手穂地内
調査の原因：特別史跡追加指定事業に係る確認調査
支援期間：2025.10～2026.02
調査コード：25-01-310

はじめに

和歌山県教育委員会（以下、「県教育委員会」とする）が岩橋千塚古墳群追加指定事業において実施する森小手穂埴輪窯跡の確認調査及び出土遺物整理について支援業務を受託した。現地作業について県教育委員会の指示を受けて、発掘作業員及び調査補助員を雇用して確認調査業務の一部の技術支援を行った。また、応急整理として出土遺物の整理業務（水洗作業）について整理作業員を雇用して実施した。

調査の成果

令和6年度に県教育委員会が分布調査した周知の埋蔵文化財包蔵地「森小手穂埴輪窯跡」のうち、現地表面で埴輪が最も拾われた範囲を対象として、4つのトレンチ（調査区）を設定して調査を実施した。

1トレンチでは、埴輪が多量に出土する黄褐色土層を検出した。また、黄褐色土の土坑に埴輪片が入れ込まれていた遺構を検出し、それより下層で時期不明の溝状遺構を検出した。

2トレンチでは、表土直下で岩盤層を検出した。埴輪は出土しなかった。

3トレンチでは、1トレンチ同様、多量に埴輪を出土する黄褐色土層を検出した。また、3列に並べられた状態の埴輪を検出した。多くの埴輪底部の下には石が置かれており、斜面で倒れないように埴輪を置く工夫とみられる。これらの埴輪の大半は円筒埴輪の底部とみられるが、形象埴輪片も出土している。

4トレンチでは、1トレンチや3トレンチで検出した多量の埴輪を出土する黄褐色土は検出されなかった。

出土した遺物は、多量の円筒埴輪のほか家形や器財（蓋形など）、人物、動物（馬形など）の形象埴輪などがある。

今回の確認調査では、埴輪窯跡があったことを示す被熱した土、炭化物や失敗した埴輪を捨てた灰原などが検出されなかったことから埴輪窯の存在を確認できなかった。一方、3トレンチでは列状に並べられた状態の埴輪を検出し、古墳に並べる場合とは異なる方法で埴輪が置かれていたことなどから、発掘調査対象地が古墳であった可能性は低いと考えられる。発掘対象地に埴輪が多量に出土した理由については、今後出土遺物の整理作業により検討を進めていく必要がある。

（仲原 知之）



埴輪検出作業風景（北西から）



実測作業風景（北から）

井辺遺跡第 100・102 次発掘調査支援

遺跡の時代：古墳時代初頭（第 100 次）
弥生時代後期～古墳時代中期（第 102 次）
所在地：和歌山市井辺地内（第 100 次）
同市神前地内（第 102 次）
調査の原因：民間開発（第 100 次）
市営団地建替工事（第 102 次）
支援期間：2025.06～2025.10（第 100 次）
2025.09～2025.12（第 102 次）

はじめに

公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団が実施する井辺遺跡第 100・102 次発掘調査への支援を行った。

井辺遺跡は、紀の川南岸平野部の南東部、背後に独立丘陵の福飯ヶ峯、北西方に開けた沖積低地を望む好適地に位置し、弥生時代後期から古墳時代前期に最盛期となる集落遺跡である。遺跡は、東西約 1 km、南北約 1 km の範囲に広がっている。

近年の調査では、集落の形成時期が縄文時代晩期後半から弥生時代前期中頃に遡ることが明らかとなり、弥生時代後期から古墳時代後期にかけての居住域のほか、小区画の水田が広がる生産域、方形周溝墓等が築かれる墓域が見つかる等、縄文時代晩期後半以降の集落の内部構造の変遷が明らかになりつつある。

特に、遺跡東部で行われた調査では、弥生時代後期から古墳時代前期の居住域や墓域が見つかり、多数の竪穴建物や井戸から当時の生活用具が多量に出土している。

発掘調査の支援

支援の内容は発掘調査における機械・人力掘削の指示、実測・写真の記録作業である。業務は公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団及び和歌山市の指導のもと、当センターの技術職員が実施した。

技術職員は延べ約 165 日間業務に従事した。作業内訳は業務打合せ、現地指示等である。調査補助員を延べ約 77 日間雇用し、技術職員の補助を行った。

調査成果の概要（第 100 次）

調査地は井辺遺跡の東部に位置し、調査対象面積は約 1,413m²である。既往の調査から、調査地周囲は

居住域にあたり、南側には流路が東西方向に流れていたと推測されている。

機械による掘削は、調査地全面に堆積する現代の耕作土について行った。人力による掘削は、遺構面保護層や攪乱のほか、サブトレンチ、さらに各遺構検出面で検出した遺構埋土について行った。遺構の掘削は、竪穴建物や溝等はセクションベルトを設け、土坑やピット等は半裁掘削を行った。

遺構面は古墳時代初頭とみられる 1 面を検出した。遺構は、当該時期の遺物が出土する竪穴建物跡、土坑、井戸、溝、ピット等を確認した。一部の竪穴建物跡は重なり合って検出していることから、数回建物の建て替えが行われ、長期的に人々が暮らしていたことがうかがえる。また、調査区の北側では南北方向の流路を複数検出したことから、調査地の中央から南側は、流路に挟まれた微高地であったと考えられる。



調査地位置図（S=1/10,000）



井辺遺跡第 100 次発掘調査 竪穴建物検出状況（南から）
【和歌山市提供】

調査成果の概要（第102次）

調査地は井辺遺跡の中央部に位置する。調査区は、住宅となる部分を1区、浄化槽を設置する部分を2区とし、調査対象総面積は約602㎡である。既往の調査から、調査地周囲は居住域にあたり、南側には流路が東西方向に流れていたと推測されている。

機械による掘削は、調査地全面に堆積する造成土及び、現代の耕作土のほか、部分的に遺存する近世以降の耕作土について行った。人力による掘削は、サブトレンチ、さらに各遺構検出面で検出した遺構埋土について行った。遺構の掘削は、竪穴建物や溝等はセクションベルトを設け、土坑やピットなどは半裁掘削の後完掘を行った。

遺構面は弥生時代後期から古墳時代中期とみられる3面を検出したが、旧団地建物建設時の攪乱により、調査区の約5割の範囲においては遺構面が遺存していない状況であった。

調査の結果、遺構面上面において、弥生時代後期から古墳時代中期の竪穴建物や古墳時代初頭の溝、古墳時代中期の井戸等を検出した。

個別の遺構の特徴については、次のとおりである。溝の性格としては、調査地の南側で実施された第58・76次調査において水田が検出されていることから、南側の生産域と北側の居住域を分ける区画溝の可能性はある。

竪穴建物については重なり合って検出したことから、数回建て替えが行われていたと考えられる。また、1区で検出した竪穴建物は地床炉を有する一方、2区で検出した竪穴建物はカマドを有していたことから、炊事施設の転換の様相を知る上で貴重な資料を得ることができた。

これらの遺構検出状況から、調査地は井辺遺跡における弥生時代から古墳時代集落の居住域の中心部に位置していたと考える。

支援業務の一環として、令和7年10月19日に発掘調査の現地説明会を開催し、市民へ調査成果の説明を行った。（石丸 彩）



井辺遺跡第102次発掘調査 現地説明会の様子
【和歌山市提供】



井辺遺跡第102次発掘調査 1区溝 土器出土状況
【和歌山市提供】



井辺遺跡第102次発掘調査 1区第1遺構面 全景（西半）
【和歌山市提供】



井辺遺跡第102次発掘調査 2区井戸 下層出土土器壺
【和歌山市提供】

津秦遺跡第 24 次発掘調査支援

遺跡の時代：弥生時代～古墳時代前期
所在地：和歌山市有家地内
調査の原因：民間開発
支援期間：2025.11～2025.12

はじめに

公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団が実施する津秦遺跡第 24 次発掘調査への支援を行った。

津秦遺跡は、紀の川南岸の平野部に位置する弥生時代以降の集落遺跡である。遺跡北側には日前・國懸神社が、西側には秋月遺跡や太田・黒田遺跡、東・南側には津秦Ⅱ遺跡や井辺遺跡など集落遺跡が位置しており、縄文時代晩期以降人々の活発な活動が伺える。

発掘調査の支援

支援の内容は発掘調査における機械・人力掘削の指示、実測・写真の記録作業である。業務は公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団及び和歌山市の指導のもと、当センターの技術職員が実施した。

技術職員は延べ約 15 日間業務に従事した。作業内訳は業務打合せ、現地指示等である。調査補助員は延べ 10 人日分を雇用し、遺構配置図、調査区平面図及び調査区土層断面図、検出した遺構の実測等を実施した。

調査成果の概要

調査地は津秦遺跡の西部に位置し、調査対象面積は 236.0㎡である。調査地周囲は、調査地北東に位置する津秦八幡神社周囲の微高地と微低地の境界に位置すると考えられ、遺構面は弥生時代～古墳時代初頭とみられる 1 面を検出した。ただし、検出した遺構の中には瓦器・土師器皿等を出土するものが複数あり、本来調査区周囲には、後世の土地開発や耕作により削平されたが、中世前半の遺構面も存在していたと推定される。また、少数ではあるが、弥生時代前期の広口壺等が出土している点も注目される。

弥生時代末～古墳時代初頭の遺構として当該時期

の遺物が出土する土坑、井戸、溝、小穴等を確認した。また、それらの遺構に重複する形で中世の遺物を出土する井戸などを確認している。埋土の中に瓦器・土師器皿を多数含む中世の井戸は、弥生末から古墳時代初頭の遺構が掘りこまれるシルト質の地山層の更に下層に位置する砂層まで掘りこまれており、調査中も湧水が確認された。また、この井戸の底部からは井戸枠として使用された曲物を確認している。

今回の調査では竪穴建物や掘立柱建物等の建物の痕跡は確認していないが、弥生時代末から古墳時代初頭で 1 基、中世で 2 基の井戸を検出したことから、調査区周囲は集落域が広がっていたことが推測できる。

(濱崎 範子)



調査区全景（南から）【和歌山市提供】



井戸枠出土状況（南から）【和歌山市提供】

根来寺遺跡の確認調査支援

遺跡の時代：中世～近世

所在地：岩出市根来地内

調査の原因：根来寺本坊新築工事

支援期間：2025.07～2025.12

はじめに

岩出市教育委員会が実施する根来寺遺跡の確認調査の支援を行った。

支援の内容は確認調査等における準備、実測等の記録、人力掘削、応急整理及び賃金職員の労務管理等である。

業務は岩出市教育委員会職員の指導のもと、当センターの技術職員が必要な人員（賃金職員）を確保し、実施した。

確認調査等の支援

技術職員は延べ約52日間業務に従事した。作業内訳は業務打合せ、労務管理、現地指示等である。調査補助員を延べ20日間、発掘作業員を延べ61日間、整理作業員を延べ20日間雇用し、確認トレンチの平面図及び土層断面図、検出した遺構の実測、出土遺物の水洗作業等を実施した。

調査成果の概要

(1) 調査方法

調査区は井桁状に設定した。調査区延長が長く、また、地点毎の土層堆積状況を把握するため、10区画（1～10トレンチ）に分けて調査した。

(2) 基本層序

碎石層・現代整地層（第0層）、昭和37年根来寺本坊火災に伴う炭層・整地層（第1層）、近世整地層（第2層）、中世整地層（第3層）、地山層（第4層）の順で堆積する。遺構面は、近世整地層である第2層上面と地山層である第4層上面であり、それらの上面で近世の遺構を検出した。なお、2トレンチにおいてのみ、第4層上面で中世の土坑1基を検出した。

(3) 調査結果

1・3・6・9・10トレンチ 表土層は、碎石層・現代整地層（第0層）であり、その下層は、昭和37年根来寺本坊火災に伴う炭層・整地層（第1層）、近世整地層（第2層）、地山層（第4層）が堆積し、第2・4層上面で近世の遺構を検出した。

2トレンチ 表土層は、碎石層・現代整地層（第0層）であり、その下層は、昭和37年根来寺本坊火災に伴う炭層・整地層（第1層）、近世整地層（第2層）、中世整地層（第3層）、地山層（第4層）が堆積し、第2・4層上面で中世及び近世の遺構を検出した。

4トレンチ 表土層は、碎石層・現代整地層（第0層）であり、その下層は、昭和37年根来寺本坊火災に伴う炭層・整地層（第1層）、近世整地層（第2層）、中世整地層（第3層）、地山層（第4層）が堆積し、第2・4層上面で近世の遺構を検出した。

5トレンチ 表土層は、碎石層・現代整地層（第0層）であり、その下層は近世整地層（第2層）が堆積し、第2層上面で近世の遺構を検出した。

7・8トレンチ 表土層は、碎石層・現代整地層（第0層）であり、その下層は、昭和37年根来寺本坊火災に伴う炭層・整地層（第1層）、近世整地層（第2層）が堆積し、第2層上面で近世の遺構を検出した。

(4) まとめ

地山層（第4層）の上には中世整地層（第3層）、近世整地層（第2層）が堆積しており、これらは根来寺境内地の造成に伴うものと考えられる。昭和37年根来寺本坊火災に伴う炭層・整地層（第1層）は、5トレンチを除く全てのトレンチで堆積を確認しており、昭和37年に発生した火災が本坊の範囲全体に及んでいたことがわかった。また、部分的に近現代の攪乱が及んでいたが、近世以前の遺構が遺存することを確認した。（石丸 彩）



実測作業状況

八反田遺跡の確認調査支援

遺跡の時代：弥生時代、中世
所在地：新宮市木ノ川地内
調査の原因：店舗建設
支援期間：2025.06～2025.09

はじめに

新宮市教育委員会が実施する八反田遺跡の確認調査の支援を行った。

支援の内容は確認調査等における準備、実測等の記録、人力掘削、実測図等の整理及び賃金職員の労務管理等である。

業務は新宮市教育委員会職員の指導のもと、当センターの技術職員が必要な人員（賃金職員）を確保し、実施した。

確認調査等の支援

技術職員は延べ約 11 日間業務に従事した。作業内訳は業務打合せ、成果品納品、労務管理、現地指示等である。調査補助員を延べ 10 日間、発掘作業員を延べ 8 日間雇用し、確認トレンチの平面図及び土層断面図、検出した遺構の実測等を実施した。整理補助員を延べ 9 日間雇用し、写真の現像作業や遺構実測図のデジタルトレース作業を行った。

調査成果の概要

(1) 調査方法

確認調査は、幅約 1.5m、長さ約 5.0m のトレンチを 25 箇所設定して行った。発掘は機械及び人力により行い、各層上面で人力による精査を行い、遺構・遺物が確認されなかった場合は機械または人力で掘り下げを行った。

(2) 基本層序

基本層序は次の 4 層に大別した。

第 1 層：耕作土。

第 2 層：暗灰黄色～暗オリーブ褐色を呈し、弥生土器を主とする遺物包含層。

第 3 層：灰黄褐色土層～黒褐色土層。

第 4 層：自然堆積土層あるいは地山。遺構面。

(3) 調査結果

2 トレンチ 掘削の結果、第 1 層の直下で第 2 層がみられた。標高約 4.2m の深さで第 4 層がみられ、その上面で土坑 1 基を検出した。また、標高約 4.1m の深さにおいてもピット 2 基を検出したことにより、このトレンチでは遺構面が 2 面存在することを確認した。

4 トレンチ 掘削の結果、第 1 層の直下で第 2 層がみられた。標高約 4.2m の深さで第 4 層がみられ、その上面で土坑 1 基、ピット 1 基を検出した。

10 トレンチ 掘削の結果、第 1 層の直下で第 2 層がみられた。標高約 4.1m の深さで第 4 層がみられ、その上面で土坑 2 基を検出した。

11 トレンチ 掘削の結果、第 1 層の直下で第 4 層がみられた。その上面で土坑 1 基を検出した。埋土には中世の遺物を含んでいたことから、この土坑については中世に掘りこまれたものと考えられる。

16 トレンチ 掘削の結果、第 1 層の直下で第 2 層がみられた。標高約 3.8m の深さで第 4 層がみられ、その上面で土坑等複数の遺構を検出した。

17 トレンチ 掘削の結果、第 1 層の直下で第 4 層がみられた。その上面で土坑やピットを複数検出した。

23 トレンチ 掘削の結果、第 1 層の直下で第 2 層がみられた。標高約 4.0m の深さで第 4 層がみられ、その上面で土坑やピットを複数検出した。

なお、上記以外の 1・3・5～9・12～15・18～22・24・25 トレンチにおいては遺構は確認されなかった。
(石丸 彩)



八反田遺跡確認調査 実測作業状況

東郷遺跡の発掘調査支援

遺跡の時代：弥生時代、古墳時代、古代～中世
所在地：日高郡日高川町土生地内
調査の原因：町道土生藤井線道路改良工事
支援期間：2025.10～2025.12

はじめに

日高川町教育委員会及び御坊市及び日高郡6町埋蔵文化財保護行政事務協議会が実施する東郷遺跡発掘調査の支援を行った。東郷遺跡は御坊市と日高川町にまたがる遺跡で、既往の発掘調査では、弥生時代や古墳時代、古代～中世などの遺構が検出されている。

調査の成果

技術職員は現地作業の支援及び実績報告書作成に約3.5日間従事した。また、調査補助員を延べ4日間、発掘作業員を延べ16日間雇用し、人力掘削作業や実

測図作成補助等の作業を行った。(仲原 知之)



東郷遺跡発掘調査 掘削作業風景(北東から)

田辺市内遺跡確認調査等支援

遺跡の名称：八丁田圃遺跡、下村遺跡
所在地：田辺市秋津町地内(八丁田圃遺跡)
同市稲成町地内(下村遺跡)
調査の原因：集会所建築工事
支援期間：2025.06～2026.03

はじめに

田辺市教育委員会が実施する確認調査等の支援を行った。支援を行ったのは八丁田圃遺跡及び下村遺跡の確認調査である。

八丁田圃遺跡は右会津川と左会津川の間形成された沖積地に展開する縄文時代から鎌倉時代の遺跡である。下村遺跡は稲成川右岸の沖積地に展開する弥生時代から奈良時代の遺跡である。

調査の成果

技術職員は現地作業の支援及び実績報告書作成に約

10日間従事し、遺構検出や実測図作成作業を行った。調査の結果、遺構は確認されなかった。(石丸 彩)



下村遺跡確認調査 完掘状況(南東から)

白浜町内遺跡試掘確認調査及び工事立 会調査等支援

遺跡の名称：東白浜遺跡

所在地：西牟婁郡白浜町字月崎地内

支援期間：2025.11～2026.03

はじめに

白浜町教育委員会が実施する確認調査等の支援を行った。支援を行ったのは東白浜遺跡の確認調査である。

東白浜遺跡は海岸に展開する古墳時代の遺跡である。

確認調査等の支援

技術職員は現地作業の支援及び実績報告書作成に約6日間従事し、遺構検出や実測図作成作業を行った。また、整理作業員を延べ3人日分雇用し、調査写真の現像作業等に従事した。

調査の成果

(1) 調査方法

確認調査は、幅1.5m～2.7m、長さ3.5～4.1mのトレンチを8箇所設定して行った。発掘は機械及び人力により行い、各層上面で人力による精査を行い、遺構・遺物が確認されなかった場合は機械で掘り下げを行った。なお、各トレンチの掘削深度は、今後設置が予定されている建物（ホテル、飲食店）基礎の深度に合わせているため、地山面を確認できていないトレンチも存在する。

(2) 基本層序

基本層序は次の3層に大別し、枝番により細分した。

第0層：旧建物建築に伴う攪乱土層。

第1層：現代整地土層。

第2層：明黄褐色～黄褐色を呈する細粒砂～中粒砂層である。地山または自然堆積土層である。

(3) 調査結果

1・3トレンチ 掘削の結果、第0層のみの堆積を確認した。遺物は確認されなかった。

2・4トレンチ 掘削の結果、第1層の直下、現状地

盤面から約0.5mの深さで第2層（地山）がみられた。遺構・遺物ともに確認されなかった。

5トレンチ 掘削の結果、第0層の直下、現状地盤面から約1.2mの深さで第2層（地山）がみられた。遺構・遺物ともに確認されなかった。

6トレンチ 掘削の結果、第1層のみの堆積を確認した。遺物は確認されなかった。

7トレンチ 掘削の結果、第0層の直下、現状地盤面から約0.4mの深さで第2層（砂質の自然堆積土層）がみられた。遺構・遺物ともに確認されなかった。

8トレンチ 掘削の結果、第0層の直下、現状地盤面から約0.2mの深さで第2層（地山）がみられた。遺構・遺物ともに確認されなかった。

(4) まとめ

8箇所における掘削の結果、いずれにおいても遺構・遺物ともに確認されなかった。また、第2層を確認した高さがそれぞれのトレンチで異なるため、旧建物建築に伴い旧地形が削平されたと考えられる。

(石丸 彩)



調査地位置図 (S=1/10,000)



東白浜遺跡確認調査 4トレンチ 北壁土層断面 (南から)

県内遺跡発掘調査等事業に伴う確認調査等支援

遺跡の名称：遺物散布地（姫地区）
所在地：東牟婁郡串本町姫地内
支援期間：2026.03

はじめに

和歌山県教育委員会が実施する県内遺跡の試掘確認調査等事業への支援を行った。

支援の内容は試掘確認調査等における準備、実測等の記録、人力掘削及び賃金職員の労務管理等である。

業務は和歌山県教育委員会職員の指導のもと、当センターの技術職員が必要な人員（賃金職員）を確保し、実施した。

調査の成果

串本町内の遺物散布地（姫地区）において、調査

区の壁面清掃、遺物包含層の掘削、遺構面の精査及び遺構掘削などの人力掘削作業をおこなった。

確認調査等の支援において、技術職員は延べ0.4日間業務に従事した。作業内訳は業務打合せ、成果品納品、労務管理等である。調査補助員は延べ1人日分を雇用し、トレンチの平面図及び土層断面図作成等を実施した。

調査の結果、遺構は確認されなかった。（石丸 彩）



調査地位置図（S=1/40,000）

紀美野町内遺跡試掘確認調査及び工事立会調査等支援

遺跡の名称：下佐々Ⅰ遺跡、東野遺跡、安井遺跡
所在地：海草郡紀美野町下佐々地内、同町東野地内、同町野中地内
支援期間：2025.07～2026.03

はじめに

紀美野町教育委員会が実施する紀美野町内遺跡工事立会調査等の支援を行った。支援を行ったのは下佐々Ⅰ遺跡、東野遺跡及び安井遺跡の工事立会調査である。

下佐々Ⅰ遺跡は貴志川右岸の河岸段丘に展開する縄文時代の遺跡であるが、過去に実施された工事立会調査などから、中世の遺構も確認されている。東野遺跡は真国川右岸の河岸段丘に展開する縄文時代の遺跡である。安井遺跡は貴志川左岸の丘陵端に展開する縄文時代及び中世の集落跡である。

調査の成果

技術職員は現地作業の支援及び実績報告書作成に約5日間従事し、精査作業や実測図作成等の作業を実施した。

調査の結果、いずれの遺跡においても遺構は確認されなかった。（石丸 彩）



安井遺跡工事立会調査 完掘状況（北から）

広川町内遺跡工事立会調査等支援

遺跡の名称：上中野馬上遺跡
所在地：有田郡広川町上中野地内
支援期間：2025.05～2026.03

はじめに

広川町教育委員会が実施する工事立会調査等の支援を行った。支援を行ったのは上中野馬上遺跡の工事立会調査である。上中野馬上遺跡は、和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図によると、廣八幡宮が所在する丘陵南側に隣接し、平安時代の瓦器が出土したとされる。

調査の成果

遺跡範囲内において電柱建替工事が計画され、立

会調査を実施した。調査の結果、遺構及び遺物は確認されなかった。壁面精査後、平面図・土層断面図作成、写真撮影等を実施した。また、撮影した写真のデジタル現像作業や実績報告書作成などの業務を実施した。

(仲原 知之)



上中野馬上遺跡工事立会調査 掘削状況（南から）

上富田町内遺跡試掘確認調査及び工事立会調査等支援

遺跡の名称：加茂遺跡、田上右京之進屋敷跡、立平遺跡、熊代左近之丞屋敷跡
所在地：西牟婁郡上富田町下鮎川地内（加茂遺跡）、同町市ノ瀬地内（田上右京之進屋敷跡、熊代左近之丞屋敷跡）、同町岩田地内（立平遺跡）
支援期間：2025.06～2026.03

はじめに

上富田町教育委員会が実施する工事立会調査等の支援を行った。支援を行ったのは加茂遺跡、田上右京之進屋敷、立平遺跡及び熊代左近之丞屋敷跡の工事立会調査である。

加茂遺跡は富田川右岸の丘陵に展開する弥生時代の遺跡である。田上右京之進屋敷は富田川右岸の平地に位置する中世の館跡である。立平遺跡は富田川右岸の河岸段丘に展開する古墳時代の遺跡である。熊代左近之丞屋敷跡は富田川左岸の台地端に位置する中世の館跡である。

調査の成果

技術職員は現地作業の支援及び実績報告書作成に約 15 日間従事し、精査作業や実測図作成等の作業を実施した。

調査の結果、遺構は確認されなかった。(石丸 彩)



熊代左近之丞屋敷跡工事立会調査
北壁土層断面（南東から）

近代の文化遺産詳細調査事業に係る 鉱山関連文化遺産分布調査等支援

文化財名称：県内の鉱山跡

所在地：西牟婁郡白浜町、新宮市、東牟婁郡那智勝
浦町、東牟婁郡古座川町ほか

調査の方法：分布調査

支援期間：2025.09～2026.03

はじめに

和歌山県教育委員会では、令和2年度から近代の文化遺産の調査を実施し、令和4・5年度に所在把握と分野別の概要報告書を刊行している。引き続いて令和6・7年度には県内の近代を特徴づけるテーマを選出して文化遺産群の実態把握のためにより詳細な調査を進めてきた。令和6年度は国防、林業・木材産業、災害関連文化遺産群を調査し、令和7年度は交通、移民、鉱山、みかん産業、観光業、地場産業関連の文化遺産群を調査している。このうち、鉱山関連の文化遺産群について、当センターが分布調査の支援業務を県教育委員会から受託して実施した。

業務の内容

和歌山県教育委員会が実施する近代の文化遺産詳細調査事業に係る鉱山関連文化遺産の分布・現況調査並びに調査カード作成、報告書執筆等の支援を実施した。整理支援業務としては、整理補助員及び整理事業員を雇用して、分布調査した各鉱山跡の調査カードを作成した。

分布調査では、西牟婁郡白浜町の久木精練焼成窯跡や新宮市の佐野鉱山、東牟婁郡那智勝浦町の尻剣谷製錬所跡、東牟婁郡古座川町の蔵土鉱山などについて現地調査を実施した。各鉱山では、坑道入口だけでなく、一部で石組精練用窯跡や火薬庫、関連施設のコンクリート基礎、ズリ山、散布するカラミ（鉱滓）などを確認できた。これらの関連遺構について、位置の把握や写真撮影などの記録作成を行った。（仲原 知之）



新宮市 佐野鉱山（精練窯跡）



古座川町 蔵土鉱山（火薬庫）

根来寺遺跡の出土遺物等整理支援

遺跡の時代：古代～近世

所在地：岩出市根来地内

調査の原因：根来寺本坊新築工事

整理期間：2026.01～2026.03

はじめに

根来寺遺跡は、紀の川北岸の盆地に展開する平安時代～中世・近世の寺院跡である。今回の調査地は遺跡の中心部にあたり、既往の調査では中世の遺物が出土している。

根来寺本坊新築工事に伴い、岩出市教育委員会が実施した確認調査の技術支援を行った。調査の結果、中世から近世の遺構を確認した。本調査の概要は、本書9頁のとおりである。

整理業務の内容

確認調査により出土した遺物の実測図作成、遺物トレース、遺構トレース、遺物の写真撮影、写真現像及び発掘調査報告書原稿作成の業務支援を行った。

技術職員は延べ約17日間業務に従事した。作業内訳は業務打合せ、成果品納品、労務管理、報告書原稿執筆等である。整理補助員を延べ18日間雇用し、遺物実測図、遺物トレース及び遺構デジタルトレース等の作業に従事した。整理作業員を延べ2日間雇用し、写真の現像等作業に従事した。

出土遺物は、土師器、瓦器、須恵質土器、石製品、陶磁器、銭貨等である。

遺物個別の特徴として、全体的に灰白色を呈する土師器皿は、他の土師器皿と比べて色調が白っぽいものであり、15世紀後半に盛行する。また、横方向のナデが強く口縁部が肥厚する土師器皿も出土し、これは16世紀代に盛行する形式である。

土師質土器鍋及び土師質土器羽釜は胎土に片岩を含んでいるものもあり、これらは在地で作製された可能性がある。一方、搬入土器は東播焼など西日本の土器のみでなく、常滑焼の土器も出土することから、東

海地域との交易も行われていたことが想像できる。

出土遺物全体をみると、主に13世紀から16世紀にかけてのものが出土した。根来寺の歴史では、宗祖覚鑿の没後、中興の祖といわれる頼諭が僧侶の学びの拠点を根来に設けた時期から、豊臣秀吉による焼き討ちが発生した時期に相当する。本調査は史跡地内の限られた調査であったため、調査地の来歴等全容は不明であるが、古代以前の遺物はなく、調査地においては遅くとも中世以降に人々が活動していたことを確認した。
(石丸 彩)



遺物実測作業状況



遺物デジタルトレース作業状況



調査写真現像作業状況

八反田遺跡の第2次出土遺物等整理支援

遺跡の時代：弥生時代中期～古墳時代前期
所在地：新宮市佐野・木ノ川
調査の原因：市道比奈久保線交差点改良工事
整理期間：2025.04～2026.03
調査コード：HTD23

はじめに

八反田遺跡は、新宮市佐野・木ノ川に存在する遺跡である。那智勝浦町との境界に近い、佐野川と木ノ川の沖積平野にあり、2つの川の合流地点に位置する。既往の調査で弥生時代の遺構や出土遺物が確認されている。

令和5年度、新宮市の市道比奈久保線交差点改良工事に伴い、新宮市教育委員会が実施した発掘調査(調査対象面積361.0㎡)の技術支援を行った。調査では、遺構面を3面確認し、弥生時代中期から弥生時代後期、古墳時代前期までの竪穴建物跡や掘立柱建物跡、柱穴、土坑、溝、落込み等の遺構を確認した。出土遺物等整理作業は、令和6年度及び7年度に当センターが新宮市教育委員会の支援業務として実施した。

整理業務の内容

出土遺物は、弥生土器、土師器、石製品、木製品、土製品等である。各遺構、各遺物包含層から弥生時代中期から後期の甕、壺、高坏、鉢等の弥生土器、石鏃や石斧等の石製品、古墳時代前期の二重口縁壺、小形丸底土器等の土師器が出土した。土器の中には、弥生時代中期の大形壺、古墳時代前期の大形粗製鉢があり、また、伊勢湾沿岸、近江、伊予、吉備等の他地域からの搬入土器も認められた。水銀朱が付着した石杵も出土している。

令和7年度の整理作業として、大形土器の復元・補強作業、遺物実測図のデジタルトレース、遺物写真撮影をおこなった。また、新宮市教育委員会とともに報告書の組版・執筆・編集・校正等を行い、発掘調査報告書を刊行した。また、出土遺物を再収納して新宮市文化財収蔵倉庫に運搬した。(仲原 知之)



大形壺の復元・補強作業



出土遺物運搬・収納状況(新宮市文化財収蔵倉庫)

下里古墳の出土遺物等整理支援

遺跡の時代：古墳時代

所在地：東牟婁郡那智勝浦町下里地内

調査の原因：下里古墳の整備・活用計画策定

整理期間：2026.01～2026.06

はじめに

下里古墳は、東牟婁郡那智勝浦町大字下里に所在する本州最南端にある国史跡の前方後円墳である。当古墳は、太田川の左岸、現在の下里集落の中心地からやや北側の山裾付近に位置し、標高約4.0mの砂丘の平坦部に築造されている。

当古墳において、従前に第1～3次発掘調査が実施されたが、第2・3次発掘調査については報告書が刊行されていない状況である。そのため、那智勝浦町教育委員会が実施する出土遺物等整理作業の技術支援を行い、令和8年度に報告書を刊行する予定である。

第2・3次発掘調査の成果

(1) 第2次発掘調査

部分的ではあるが古墳の裾を検出したことにより、下里古墳の墳丘規模は次のとおりと考えられる。

全長：約50m（周溝含む、墳長は約40m）

後円部径：約21.5m

後円部残存高（基底石から墳頂までの高さ）：約2.8m

（溝底から墳頂までの高さ）：約3.4m

前方部幅（くびれ部幅）：約10m

(2) 第3次発掘調査

掘削の結果、墳丘、葺石及び周溝を確認した。葺石は、特に前方部で良好に残存しており、前方部における葺石の積み方を知る上で貴重な資料を得ることができた。また、葺石の石材は、古墳周辺の地質である熊野層群に含まれる砂岩と見られ、太田川流域又は付近の海岸から採取したものと考えられる。

周溝は、後円部においては、周溝を確認することができたが、前方部北側では、明確な周溝を確認できなかった。しかしながら、溝状の窪みが見られること

等から、前方部北側においても周溝を意識した溝状の遺構があったと考えられる。また、調査状況から、下里古墳を圍繞する周溝の形状は、盾形の可能性が高いと考えられる。

整理業務の内容

発掘調査により出土した遺物の登録、遺物実測図作成、遺物トレース、遺物の写真撮影、写真現像及び発掘調査報告書原稿作成の業務支援を行っている。

出土遺物は、土師器、須恵器、山茶碗、瓦器、陶器、土製品等であり、古墳時代から近世の所産である。

遺物個別の特徴として、第2次発掘調査で出土した土師器甕等は古墳時代前期後半の所産の可能性があり、古墳の築造年代を裏付ける結果となった。

中世所産の遺物は、日用雑器がほとんどであることから、中世には古墳の周辺の集落があり、人々が暮らしていたことがうかがえる。

また、所産時期に関わらず、東海地域から搬入された可能性のある遺物が多く確認されている。中世の遺物については、東海地域のほか、紀伊北部や播磨地域との関わりが遺物から見え、東海地域を中心として様々な地域と交流していたことがうかがえる。

(石丸 彩)



遺物実測作業状況



遺物デジタルトレース作業状況

金剛峯寺境内奥州南部家墓所調査支援

遺跡の名称：史跡金剛峯寺境内（奥院地区）
所在地：伊都郡高野町高野山地内
調査の原因：石塔修理工事
支援期間：2025.08～2026.01

はじめに

史跡金剛峯寺境内の奥院地区は、杉の巨樹が林立する中に20万基ともいわれる供養塔が密集して建立されている。その中でも巨大な五輪塔をもつ大名家墓所が約200箇所確認されている。大名家墓所のほとんどが江戸時代に建立されたもので、長い年月の間に風雨や倒木などにより倒壊して修復を必要とするものも少なくない。

史跡金剛峯寺境内の奥院地区に所在する奥州南部家墓について、石塔の修理が計画された。実施主体は宗教法人金剛峯寺で、奥野石材店が「金剛峯寺境内歴史生き活き！史跡等保存活用整備事業奥州南部家墓所石塔修理工事」として受託して実施することになった。その工事に伴い事前の墓所現況調査等について、奥野石材店から当センターが支援業務として受託して実施した。

業務の内容

石塔修理を実施するにあたって、事前に現況写真及び現況図面の作成が必要となる。

まず、石塔等解体前に墓所全体の写真撮影を実施した。その後、当センター事務局において、Metashapeを用いて3Dデータを作成し、CloudCompareを用いて平面及び立面のオルソ画像を作成した。オルソ画像作成用に4,304枚の撮影写真データを使用した。次に、オルソ画像を基にしてデジタルトレース作業を実施して現況平面図及び立面図を作成した。

技術職員の業務日数は、現地作業（写真撮影等）2日、現況図面作成管理及び実績報告書作成等2日1時間であった。また、整理補助員延べ4人を雇用してデジタルトレース作業を実施した。（仲原 知之）



奥州南部家墓所 オルソ画像（平面）



奥州南部家墓所 オルソ画像（立面）

県立紀伊風土記の丘館蔵有形民俗文化財等整理支援

文化財名称：紀伊風土記の丘館蔵有形民俗文化財等
所在地：和歌山市岩橋（県立紀伊風土記の丘）
概要：整理支援
支援期間：2025.06～2026.03

はじめに

県立紀伊風土記の丘では、新館建設に伴い、館蔵品の整理作業を実施しており、そのうちの有形民俗文化財等の整理について支援業務を受託して実施した。

業務の内容

業務は、県立紀伊風土記の丘が所蔵する有形民俗文化財等について、紀伊風土記の丘学芸員の指示を受けて、当センターが整理作業員を雇用して、資料整理（クリーニング、計測、写真撮影、台帳作成）やデータ入力作業等を実施した。（仲原 知之）



整理作業の様子（県立紀伊風土記の丘収蔵庫）

史跡金剛峯寺境内保存活用計画策定の部分支援

文化財名称：史跡 金剛峯寺境内
所在地：伊都郡高野町高野山
概要：計画策定支援
支援期間：2025.07～2026.03

はじめに

史跡金剛峯寺境内は、「大門地区」、「伽藍地区」、「本山地区」、「奥院地区」、「徳川家霊台地区」、「金剛三昧院地区」の6つの地区で構成されており、これらは文化財としての史跡であるとともに、平安時代の高野山開創から連綿と続く宗教活動の場でもある。高野山での存在意義そのものである宗教活動を継続しつつ、適切な形で史跡を保存し、次世代に確実に継承していくために保存活用の方策や方針を定める必要があることから、宗教法人金剛峯寺が令和7～12年度にかけて

保存活用計画策定事業を実施することとなった。本業務は、宗教法人金剛峯寺から委託業務を受託した株式会社空間文化開発機構より歴史や文化財に関する項目の素案検討・執筆等の部分支援業務の委託を受けて実施した。

業務の内容

業務は、史跡金剛峯寺境内を対象とした保存活用計画案のうち史跡及び周辺の埋蔵文化財包蔵地金剛峯寺遺跡について、自然的環境や歴史的環境、発掘調査歴等に関する項目案を取りまとめた。これらの案は、令和7年12月16日の第1回史跡金剛峯寺境内保存活用計画策定委員会及び令和8年3月12日に開催された第2回策定委員会において、検討が行われた。なお、この委員会において、事前打合せ及び運営補助等の支援を行った。（仲原 知之）

重要文化財 三郷八幡神社本殿の保存修理

建築年代：永禄2年（1559）
所在地：海安市下津町黒田
事業の種類：屋根葺替修理、塗装修理、部分修理
事業期間：2024.06～2025.10

海安市黒田に所在する三郷八幡神社は、黒田・丁・丸田の3地区の鎮守社で、三間社流造・檜皮葺の本殿は室町後期に再建された建物である。令和6年度からの2カ年計画で本殿の屋根葺替・塗装修理工事を実施して、同7年10月に竣工を迎えた。

神社に残る記録から、本殿は江戸時代の後半に2度大掛かりな修理が行われたことが知られ、昭和35年度の解体修理ではその内容が確認・整理されている。今回の保存修理事業は、平成3年度の檜皮屋根の葺き替えを中心とした維持修理以来32年ぶりの維持修理で、同じく檜皮屋根の葺き替えと社殿外部の塗装・彩色の全面的な補修を行った。

2年度目の施工は、単色塗装の全面塗り替えと、彩色部は昭和期施工面の状態に合わせて補筆または描き直しを行った。また並行して、前年度の施工中に確認された近世期以前の古い彩色痕跡の調査内容の整理・記録作業も行った。事業の終盤には、氏子ほか地域住民にも今回の施工内容や新たな知見を共有する機会を得るための計画変更申請を行って、事業期間を当初計画より1箇月延長するなかで、修理完了後の現場公開とその際配布の解説用リーフレット作成を追加で実施して、事業を完了した。（下津 健太郎）



修理工事前の本殿（令和6年夏）



屋根工事後・塗装工事前の本殿（南西から見る）



塗装工事後の本殿（南西から見上げる）



同上（外方の彩色は描き直し、軒内の彩色は補筆とした）



修理工事後の本殿（令和7年秋）

重要文化財 濱口家住宅の保存修理

建築年代：主屋：江戸時代 本座敷：文化11年(1814)頃
御風楼：明治後期 新蔵：明治30年(1897)頃
南米蔵：江戸末期 北米蔵：明治27年(1894)
大工部屋：明治30年(1897)
左官部屋：明治前期
所在地：有田郡広川町広
事業の種類：半解体修理、屋根葺替、部分修理
事業期間：2025.06～2034.03

建物の概要

濱口家は、江戸時代前期に広から銚子に渡ったのちに、銚子で醤油醸造を営む西濱口家と、醤油問屋「廣屋」として江戸で醤油の販売を行う東濱口家の二家に分かれたと伝わる。両家は広村堤防の築造や耐久社の創設など、地元である広村（現・広川町）の復興と発展にも尽力した。その東濱口家の広村における活動の拠点として建てられた邸宅が濱口家住宅である。

宝永4年(1707)の地震に伴う津波被害を受けたため、西側(海側)にあった邸宅を現在地へと移転し、そののちに現在の主屋が建立された。そして、文化年間には書院造を基調とする本座敷、明治中期には敷地拡張に伴い土蔵群が建立された。明治末期には迎賓施設として木造3階建ての御風楼が建立され、その御風楼を12の構成要素の1つとした「東園十二勝」と呼ぶ池泉回遊式の庭園も整備された。近世から近代に至る屋敷構えが一体で残り、広川町を代表する商家の発展過程を示すものとして価値が認められ、平成26年には敷地内の建造物10棟と煉瓦塀5基が重要文化財に指定された。そのうちの8棟・3基は一般財団法人東濱口家保護財団が管理し、敷地南側の東濱口公園内に建つ文庫・新文庫は、広川町が管理して現在にいたる。

事業の概要

近年には、平成23年度に主屋と御風楼で屋根の部分修理が行われ、平成30年度には本座敷・御風楼・南米蔵・北米蔵・大工部屋・左官部屋の6棟で台風被害による災害復旧事業としての部分修理を実施している。ただ、現在の建物群に整えられてから100年以上が経過し、各建物は経年による木部の腐朽、建具や畳の劣化、雨漏りの影響による壁面や天井面の汚損等が



修理前の外観（手前・主屋、奥・御風楼）



修理前の外観（本座敷）



煉瓦塀の解体状況

目立ってきていた。そこで、軸部の不陸修正を図りながら建物の破損箇所を補修し、主屋・本座敷・御風楼の3棟については、耐震診断に基づく構造補強を視野に入れた修理工事を令和7年度から行う運びとなった。

修理事業は令和7年6月から令和16年3月までの9か年度事業として着手した。その事業において当センターでは、平成28年度の保存活用計画策定、令和4年度の基本設計に続いて、設計監理業務を受託することになった。

工事を3期に分けて計画し、第1期工事を令和7年



庭園内木製門扉 解体前の状況



新蔵南面庇の解体状況



素屋根建地の組立・樹木の剪定状況



素屋根の建設状況（東面より見る）

木の移植を行った。煉瓦塀は大ばらしによる解体とし、縦方向に3等分、横目地に合わせて上方を6段、下方を9段ずつの大きさに電動丸鋸を用いて切り出したのち、敷地北側に保管した。

また、素屋根外周の搬出入路との取り合いを考慮し、本座敷と御風楼の庭境にある木製門扉と新蔵の庇の先行解体、樹木の剪定を行った。解体後は、扉まわりに養生を施し、仮設工事に備えた。本座敷および御風楼の周囲で生長した樹木については、素屋根建地や足場の設置に際して支障をきたすものや建物への影響の増大が懸念されるものを対象に、素屋根の範囲内を目安として幹や枝葉の一部を剪定した。

その他の仮設工事として、屋敷地近隣の町有地において現場事務所棟の設営を行った。また、仮設工事に先立って耐震診断業務での地盤調査も実施した。敷地内の地盤を確認するため、御風楼北側の1か所、東濱口公園内の2か所においてボーリング調査を行った。

来年度は、室内の建具や畳等の搬出を行い、屋根面の瓦葺や銅板葺の解体、木部の分解等を進めていく。

（野田 達志）

度から令和12年度までの6か年度計画で、主屋・本座敷・御風楼の3棟での半解体修理を行う。

令和7年度は、破損や仕様等を含めた現況確認、現状図作成のための実測等を進めながら、工事の発注を行った。修理工事現場が住宅街となるため、工事着工前には周辺住民への説明会など事業の周知を十分に行い、素屋根建設を主とする仮設工事に着手した。素屋根建設前には、工事中の資材搬出入口を確保するために、敷地東面北方の煉瓦塀を一部解体し、敷地内の樹

重要文化財 金剛峯寺山王院本殿の保存修理

建築年代：大永2年（1522）
所在地：伊都郡高野町高野山
事業の種類：屋根葺替、塗装修理、部分修理
事業期間：2024.11～2026.10



檜皮葺屋根の施工完了（丹生明神社）

建物の概要

高野山を象徴する大塔や金堂が建ち並ぶ壇上伽藍の西端の樹木に囲われた一角に、山王院本殿は位置する。

地主神を祀る壮大な春日造り社殿が2棟並び建ち、その南に建つ流見世棚造の総社とあわせ、極彩色に彩られた室町時代後期を代表する社殿建築である。

前回平成16年に修理を実施して以降、檜皮屋根や塗装の劣化が顕著となってきたため、令和6年11月からの三か年度事業として、檜皮屋根の葺替、塗装修理、飾り金具修理、箱棟などの木部修理を実施し、あわせて附指定の鳥居及び透塀の塗装工事を行っている。

保存修理の内容

二年目にあたる令和7年度は、各社殿に素屋根を建設して旧檜皮屋根を解体し、野地を補修した上で檜皮屋根を葺きあげた。また屋根工事に伴い、千木、勝男木や鬼板など箱棟廻り木部の修理も進めた。

神域内や周囲に鬱蒼と樹木が繁茂していたこともあり、屋根面には苔が繁茂していたが、軒積は全体に健全で、木舞等の屋根下地木部の腐朽も限定的だったため、概ね計画通りに屋根工事を進めることが出来た。

屋根工事施工前に総社彩色の剥落止めを行った上

で各社殿の内法より下部の単色塗のケレンと木地固め、塗り直しと、飾り金具の取り外し、補修を進めた。

山王院本殿の赤色塗装には鉛丹が用いられているが、縁束や土台などに顔料の顕著な黒変が認められた。このため、和歌山県内の重要文化財建造物のうち、平成中期以降に塗装工事を行った建物において塗装の経年変化の調査を行い、施工の仕様、時期、環境などを比較検討した上で、山王院本殿の鉛丹塗の実施仕様を決定した。下塗りは糊として100%の膠を用いて木部への合成樹脂の影響を押さえるとともに、上塗りには膠に10%の合成樹脂を混入し、黒変対策を講じる方針とした。山王院本殿では、今回の事業着手前に所有者が樹木の伐採、剪定を行っており、周辺環境の改善とあわせて建物固有の状況に見合った対策を図ることが、建物の適切な保全につながるものと期待される。

今回の塗装工事とあわせ、丹生明神社と高野明神社においては彩色の見取図作成（未施工部分）を進めており、次回以降の彩色塗り替えの基礎的な資料として活用することを目している。（多井 忠嗣）



檜皮葺施工状況（高野明神社）



塗装工事の進捗状況（高野明神社）

重要文化財 雨錫寺阿弥陀堂の保存修理

建築年代：室町時代
所在地：有田郡有田川町杉野原
事業の種類：屋根葺替
事業期間：2025.11～2026.10

建物の概要

雨錫寺は有田川上流の奈良県境に近い山間地に所在する、高野山真言宗の寺院である。寺の歴史に関する記録は少なく、その沿革は詳らかではない。

阿弥陀堂は、桁行五間、梁間五間の正方形平面を持ち、屋根は寄棟造の茅葺で、南面して建つ。特徴として、柱間装置（建具）は必ずしも統一された仕様で整えられてはおらず、建築当初から柱間を閉じない「吹き放し」の仏堂であったことが考えられている。また、この阿弥陀堂は重要無形民俗文化財である「杉野原の御田舞」の舞台としても知られている。

保存修理の内容

本事業は令和7年度から2カ年で、屋根葺替を行う。今年度は、仮設工事として素屋根と茅置場を組み立てるとともに、屋根工事に向けて茅葺材の調達および貯えを進めた。前回（平成24年度）に実施された屋根葺替から10年以上が経過しており、茅の抜け落ちや厚みの減少といった劣化が顕著になっている。来年度は茅屋根の解体を行い、破損状況を確認したうえで修理範囲を決定し、葺替作業を進める予定である。

（大給 友樹）



素屋根内部の状況（屋根正側面をみる）



修理前の全景（正面側：南面）



修理前の屋根（背面側：北面）



素屋根組立の完了状況（背面側：北面）



茅材の貯え作業の状況

国宝 長保寺本堂の災害復旧

建築年代：延慶4年(1311)
所在地：海南市下津町上
事業の種類：災害復旧
事業期間：2025.09～2026.03

事業の概要

令和5年6月に発生した大雨の影響により、長保寺本堂北側の法面が崩れ、本堂背面の縁廻りが土砂に埋もれて破損した他、床下部にも多量の土砂が流入した。また避雷針の導管や基礎が押し流され、棟上導体を含む本堂との取り合い部の納まりにも不具合が生じ、倒木により背面軒先周辺の瓦が割損していた。

令和6年2月より史跡指定地の事業として崩落した法面の復旧が先行して進められ、令和7年6月に完成したことを受け、本堂の災害復旧事業に着手した。

本堂の工事は、背面に作業足場を仮設し、瓦屋根の修理と避雷針導管の取り替えを行った。割れた軒瓦等は、長保寺が保管していた中古瓦や過去の修理事業での補足材を使用し、新調した導管を適切な位置に固定した上で導体等の納まりの調整、アース検査を行った。

作業足場を撤去した後、縁廻りの修理に取りかかったが、土圧により縁板や縁葛、縁束が変形し、軸部と取り合う箇所にも歪みが生じていたため、破損の著しい箇所の部材を取り外し、土砂を十分に除去して破損部を繕った上で復旧した。同様に木階も本来の位置に戻してずれ止めの補強を行い、モルタル土間の破損部を補修して災害復旧工事を完了した。(多井 忠嗣)



破損した背面縁廻り木部の補修状況

重要文化財 角長(加納家住宅)主屋ほか10棟の防災施設整備

建築年代：江戸時代～大正時代
所在地：湯浅町湯浅
事業の種類：防災施設整備
事業期間：2025.04～2026.03

事業の概要

角長は湯浅町の湯浅伝統的建造物群保存地区内で江戸時代から続く醤油の醸造蔵である。醸造用の蔵や住居など11棟が令和4年に重要文化財に指定されたことに伴い、火災報知設備を新設する事業を実施した。

醸造施設は複数の広大な蔵が連続しており、工事を行うために仮設足場を設置する必要があったが、醤油醸造の工程を止めることなく施工するため醸造担当者と十分な打合せを行い、エリアごとに施工時期を区分することにより、効率的に工事を実施した。(多井 忠嗣)



仕込み蔵の醸造樽の養生と仮設足場



竿縁天井を養生しながらの住居での施工

県指定文化財 力侍神社本殿・摂社八王子神社本殿の保存修理

建築年代：力侍神社本殿 寛永11年（1634）
摂社八王子神社本殿 寛永元年（1624）
所在地：和歌山市川辺
事業の種類：屋根葺替、塗装修理、部分修理
事業期間：2024.07～2025.11

建物の概要

力侍神社のある川辺周辺は国道24号線のバイパス開通後周辺の開発は進んでいるが、まっすぐな参道と社殿を取り囲む木々に包まれた境内は、鎮守の森にふさわしい景観を創っている。

力侍神社の創建は詳らかではないが、鎌倉時代に成立したとされる『紀伊国神名帳』に神名をみることができ、力侍神社の祭神は天手力男神で、天の岩戸を開き、天照大神を岩戸の外に連れ出した神様である。力侍神社の名称は「手力男」が転じて「力士」となり「力侍」の文字を用いるようになったとされる。摂社八王子神社は熊野九十九王子社の一つ「川辺王子」とされ、元は上野村に鎮座していたが、合祀されていた力侍神社とともに寛永期に現在地に遷されたとされる。

境内の参道の軸線上に八王子神社本殿、その向って左に力侍神社本殿が並んで南面して建つ。棟札などから、力侍神社本殿が寛永11年（1634）、摂社八王子神社本殿が寛永元年（1624）の建立であることがわかる。両社殿とも一間社流造、柿葺の建物。ほぼ同じ形式で、八王子神社本殿の方が寸法的に一割ほど大きい。両殿は小規模な社殿であるが、細部に至るまで正規の建築手法を駆使して造られ、写実的な装飾彫刻



竣工全景（手前：摂社八王子神社本殿、奥：力侍神社本殿）

など見るべきところが多い。また、「春日造」形式が圧倒的に多い紀州において、「一間社流造」形式の社殿が2棟並んで建つのは珍しい。

保存修理の概要

令和6年度から7年度の2カ年で屋根葺替・塗装修理・部分修理を実施した。6年度は、素屋根・軒足場の建設、屋根工事として柿板の作製、塗装工事は彩色の剥落止めを一部施工した。7年度は、引き続き剥落止め、彩色養生を行った後、古い柿葺を解体し、屋根野地や小屋組の補修を行った。力侍社では雨漏りによる二の母屋の折損、桔木先端の破損が確認できたので取り替えることとした。軒付積みの補修、平葺き、箱棟の補修と据え付けを行って屋根工事を終えた。塗装修理は正面軒裏、縁廻り、身舎内法長押下などの褪色の著しい部分の古い塗装を掻き落とし、単色の塗装を塗り替えた後、彩色の補筆を行った。仮設を解体して工事を終了した。

期間中、地元校区の川永小学校全児童を交代で招いて修理現場の見学会を行った。将来を担う子供たちに文化財である地元の神社を後世に伝えていくことの大切さを知ってもらうことができた。（寺本 就一）



柿葺き屋根の葺き替え工事完了（八王子神社）



塗装修理（単色の塗り替え、彩色の補筆）の完了（力侍神社）

県指定文化財 日神社本殿の保存修理

建築年代：江戸時代中期
所在地：西牟婁郡白浜町十九洲
事業の種類：屋根葺替修理、塗装修理、部分修理
事業期間：2025.09～2028.03

建物と事業の概要

日神社は、富田川左岸の山麓に境内を構える。『紀伊續風土記』等によると、熊野本宮大社第四殿の宮天照大神を勧請し主祭神に祀ったとされる。神社に伝わる棟札からは、室町時代前期には既に社殿が建立され、その後の建立（再建）や修理の経緯も知られ、由緒ある古社の一つである。

現在の本殿は、正確な建立時期は不明も様式等から18世紀初頭頃の建築とみられる。隅木入り春日造、桧皮葺、正面軒には唐破風を付けた社殿で、多種多様な彫刻と彩色が施された装飾性豊かな外観を見せる。当時の建築様式をよく伝え、昭和38年には県指定文化財となっている。本殿両脇の摂社・若宮社と稻荷社、本殿後方の末社・巖島社も本殿に続く時期の建築とされ、平成10年に白浜町指定の文化財となっている。

本事業は昭和41年、平成7年と実施されてきた屋根葺替・部分修理に続く維持修理として、今回は塗装修理も加えて令和9年度までの3か年度事業として実施するもので、本年度後半に着手、年明けに着工した。

初年度は、屋根・塗装工事の両施工に備えて素屋根を建設したほか、彩色の調査や屋根葺き材の調達などを進めた。

(下津 健太郎)



仮設工事の様子（瑞垣内に本殿を包み込む素屋根を建設）

湯浅町指定 深専寺地蔵堂の保存修理

建築年代：安政5年（1858）
所在地：湯浅町湯浅
事業の種類：半解体修理
事業期間：2025.12～2026.03

事業の概要

深専寺は熊野街道沿いにある行基開基の古刹で、本堂や庫裡、書院、惣門が和歌山県指定文化財となっている。本堂への参道脇に東面して建つ地蔵堂は、今回の修理工事に伴う分解作業において建立棟札が確認され、安政5年（1855）の建立であることが判明した。

地蔵堂は北面の軒や北西隅の柱などの木部で腐朽が進んでいたほか蟻害も確認されていたため、本年度は本瓦葺屋根全面と、正面軸部を残し木部及び左官壁の分解を行い、補足材の製作や加工を進めた。

(多井 忠嗣)



建立当初の状況が残る小屋組



正面と向拝軸部を残した分解完了状況

名勝和歌の浦 東照宮石垣の保存修理

建築年代：明治時代
所在地：和歌山市和歌浦西
事業の種類：解体修理
事業期間：2024.09～2026.03

東照宮の概要

東照宮は元和7年(1621)に紀州藩初代藩主徳川頼宣によって開かれ、境内地全体が名勝和歌の浦に指定されている。また、本殿・石の間・拝殿、唐門、東西瑞垣、楼門、東西回廊が重要文化財に指定されている。

今回修理した石垣は本殿他が建つ神域の南端に築かれ、南面する唐門や瑞垣が載る石垣から東に連続して石階段に沿って東に矩折れに積まれた範囲である。

石垣には砂岩が用いられ、切り込み接ぎの精緻な石組が特徴的であるが、令和4年11月に南面の積石の一部が崩落し、その周囲から東面部分にかけても孕み出しが顕著で不安定な状況となっていた。

保存修理の内容

名勝の構成要素として、令和6年度と7年度の補助事業で修理工事を実施した。破損部分の石材分解に伴い、化粧面の背後に別の石積が確認され、調査が必要となったため、文化庁に計画変更の申請を行い、令和6年度分を7年度に繰り越して施工する方針となった。

修理工事に先立ち、破損の原因となった周辺樹木の伐採や伐根を行い、修理が必要な範囲の石垣石材に番付を付した上で、一段づつ丁寧に分解していった。



修理前石垣の破損状況



裏面を養生しながらの積み直し状況

石材の分解を進めた結果、石垣の孕み出しの主たる原因は、石垣内部で成長した樹木の根の繁茂によることが確認されたが、同時に化粧面の奥に別の石積が施され、その石積ごと押し出されていたことに加え、化粧面には奥行が20cm程度の薄い石材が用いられていたことも変形の要因となっていたことが確認された。

一方で、化粧面及び裏面の石積からは施工時期を特定する根拠となり得る遺物が確認出来なかったこともあり、裏面の石積は原則分解せずに保存する方針となったため、石垣化粧面の積み直しにあたっては、裏面石積の表面を養生した上で、一部セメントによる補強も施しながら積み直しを施工した。原則分解前と同じ位置に石材を復したが、破損により再用出来なかった部分は、古材と色目や質感が近い砂岩で新調した。

石垣の東側に位置する石階段も、石垣と同様に周辺樹木の根や地盤面の沈下により不陸が進んでいたため、一旦石材を分解し、下地の調整を行った。据え直しは東面石垣との取り合いや地形を考慮して、踏面高さや前後の位置関係を十分に調整しながら施工し、美観を復するとともに、階段として安全に使用することが出来る納まりを復することが出来た。(多井 忠嗣)



石階段の据え直し状況

石垣及び石階段解体修理に伴う立会調査の概要

公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団の支援業務として、令和6年度は正面側（南側）の石垣上面の確認調査と正面側の石垣解体時の立会調査を実施した。令和6年度に引き続いて令和7年度は、石階段側（東側）の石垣解体時の立会調査並びに石階段解体時の立会調査を実施した。

令和6年度までの発掘調査では、石垣の内部に正面からみれば石垣状、上面からみれば敷石状の石積みが確認されていた。この石積みは古い前身の石垣ではなく、正面の石垣と一体として構築されてものと考えられた。令和7年度の石垣解体時の立会調査では、この石垣内部の石積みは、正面側の南半には積まれているが、北半には続いていることがわかった。また、内部の石積みが続いていない部分では、石階段側の石垣内側で人頭大の割石と丸石が混在する裏込めを確認した。裏込めより内側は黄褐色の盛土であった。

石階段解体時の立会調査では、石材の下の状況を確認したところ、岩盤ではなく、黄褐色シルト層であった。この層から丸瓦片が出土したことから盛土であることがわかった。石階段側の石垣の下部をピンポールで差したところ、石材がないと判断されたことから、階段状に造成した盛土上に石垣が積まれていると推測される。この盛土より下層は掘削していないため、盛土がどれくらい積まれているか、また、盛土の下層が岩盤を整形したかどうかは確認できなかった。

出土遺物等整理作業の概要

令和6年度及び令和7年度に出土した遺物や図面、写真類について整理作業を実施した。令和6年度の発掘調査時に撮影した写真から石垣正面及び上面のオルソ画像を作成し、オルソ画像を基にして平面図・立面図のデジタルトレースを実施した。また、出土遺物について水洗作業を実施した。（仲原 知之）



石垣1段目解体後上面（オルソ画像）



石垣3段目解体後正面（オルソ画像）

和歌公園観海閣の新築工事

建築年代：新築
所在地：和歌山市和歌浦中
事業の種類：設計意図伝達業務
事業期間：2023.08～2026.03

事業の概要

江戸時代前期に徳川頼宣により和歌の浦の小島・妹背山に建立され、以降二度にわたり建て直されてきた観海閣の復元的新築工事が令和7年3月に完了した。

当センターは今回の事業に伴い、令和2年度の基本設計、令和3～4年度の実施設計を担当し、令和5年度からの新築工事においては設計意図伝達業務を実施した。令和8年3月に周辺整備も含め全ての工事が完了し、木造水閣である観海閣が広く一般に開放された。

今回は名勝指定地に新築する建築として、意匠だけではなく伝統的な材料や工法を用い、オーセンティシティの確保を主眼として事業を実施した。(多井 忠嗣)



本瓦葺き屋根と漆喰工事の完成



竣工した内部からの和歌浦湾の景観

史跡旧名手宿本陣 名手役所外周土塀等の復旧

建築年代：江戸時代後期
所在地：紀の川市名手市場
事業の種類：復旧
事業期間：2025.04～2027.03

事業の概要

名手役所の敷地外周土塀について、復旧範囲の特定および工法に関する技術指導を行った。復旧工事においては、残存部分に倣い補足・復元を行い、伝統工法により江戸時代後期の姿への復旧を進めている。土塀は、復旧用の型枠を製作したうえで、段階的に土を詰めて叩き締めながら施工した。その際、錆び対策を施した鉄筋による構造補強を行った。乾燥期間を経て、次年度は屋根工事、左官工事を施工する。また、脇門復旧に向けての残存部材の確認と記録を行い、施工に向けての準備を行った。(大給 友樹)



外周土塀の残存状況（敷地北側）



外周土塀の積み上げ状況（北西隅をみる）

登録記念物 菊池海荘宅跡土塀の 機能維持工事

建築年代：江戸後期
所在地：湯浅町栖原
事業の種類：土塀修理
事業期間：2025.07～2026.03

事業の概要

菊池海荘は湯浅町栖原出身の幕末の豪商であり、文芸に講じた文化人でもあった。天保の飢饉の際には窮民を救済した功績で紀州藩地土に取り立てられるなど、地元栖原を代表する名士であり、その邸宅跡が登録記念物となって湯浅町の管理で保護されている。

邸宅跡の西面と北面は土塀で囲われているが、全体に破損が進み、道路の往来にも支障が生じかねない状況となっていたため、延べ74.5mの瓦屋根を一旦分解し、土塀や門の破損部分を補修した上で瓦屋根の葺き直しを行う工事を実施し、令和8年3月で完了した。
(多井 忠嗣)



土塀破損部分の積み直し状況



土塀修理完了状況（北面）

養源寺境内建物の実測調査

建築年代：江戸時代～昭和時代
所在地：有田郡広川町広
事業の種類：実測調査
事業期間：2025.11～2026.03

建物と事業の概要

養源寺は、室町時代草創の日蓮宗寺院で、宝永地震時の津波被害を受けて、現在の境内地へと移る。境内には江戸時代中期再建の本堂と「出世大黒天」として近世からの信仰を集める大黒堂（昭和7年再建）を中心に、町指定文化財の書院（江戸中期移築）の他、庫裡、妙見堂、地藏堂、鐘楼、東門、坊舎などを配する。

本業務は、歴史的風致維持向上計画を進める広川町からの依頼を受けて、前年度の本堂、大黒堂、書院の3棟に続き、東門、鐘楼、妙見堂、坊舎の4棟について、実測平面図ほか建物の各種調査・記録を行った。
(下津 健太郎)



東門（明治末期の建築、後方に見えるのは本堂）



妙見堂（右）と坊舎（左）

【関連研究】和田岩坪遺跡第2次発掘調査出土木製品の保存処理の顛末

1. はじめに

令和4・5年度に和田岩坪遺跡第2次発掘調査は実施され、最終埋積が古墳時代中期となる自然流路を検出した。この自然流路からは弥生時代後期末～古墳時代前期の多量の土器、土錘、製塩土器、真蛸壺などとともに木製品や自然木が出土した。出土した木製品のうち重要であると考えられる50点については原因者負担により保存処理を委託して実施した（株式会社吉田生物・高級アルコール法）。保存処理委託しなかった木製品については、従来までは整理作業終了後にシーラーパックを用いて水漬け状態で密封して保管していたが、保管状況としては万全であるとは言い難いため、今回はトレハロースを購入して自前で糖アルコール法による保存処理を実施することにした。なお、当センターでは過去にラクチツール及びトレハロースを用いた糖アルコール法による保存処理を実施したことがあるが（太田・黒田遺跡第1次調査、徳蔵地区遺跡など）、トレハロースのみの保存処理は初めての試みである。

2. 木製品の概要

和田岩坪遺跡第1次調査では自然流路内でしがらみ材が打ち込まれた状況で検出されていたが、第2次調査では一部の杭が打ち込まれた状況であったが、大半の木製品は押し流された状況で検出した。木製品を多く含む層からは多量の土器も出土しており、弥生時



糖アルコール溶液含浸状況

代後期末～古墳時代前期の所産であると考えられる。木製品の総数は497点（加工材323点、樹皮製品・曲物35点、杭・しがらみ材・伐採木139点）で、報告書には法量等を一覧表として全点、実測図56点、写真図版178点を掲載した（和歌山県文化財センター2025『和田岩坪遺跡』）。加工材には、鋏、木錘、有頭棒、板材、角材などが含まれる。サクラ樹皮による樹皮製品や加工前の伐採木などが多く出土しているのが特色としてあげられ、木製品を加工していたことが推察される。

3. 今回の保存処理について

当センターでは加熱保温設備を所有していないため、常温での含浸となり、トレハロース溶液は約40%の濃度しか上げられない状況であるが、それでもなおシーラーパックによる保管よりは可であるとの思いから取り組んだ次第である。保存処理にあたっては、工程ごとの重量について記録して実践したことから、処理完了後の法量変化も合わせて一覧表で報告することにした。なお、保存処理は出土遺物整理業務の業務外で取り組んだことから、他業務のために度々中断しながら進めている。そのため、現時点で全点の保存処理は完了していないが、完了分について今回報告する。

4. 今回の保存処理手順

保存処理する木製品については、事前に実測図を作成し、法量・重量を計測して、樹種同定用のプレパラートを作成した（樹種同定は未実施）。小物については通常の28ℓのコンテナ、杭などの長物については長



湯煎による加温状況

130cmの長尺コンテナを用意して、トレハロース濃度25～30%溶液による含浸から始めた。随時重量を図りながら適宜40%溶液による含浸に移行した。予定どおり常温での濃度は最高で濃度42%までとなり、冬場の夜間では油断すると結晶化することがあった。

濃度40%含浸後、風乾（冷却・乾燥）の工程となるが、一部で棒状の加温ヒーターによる湯煎（設定温度80℃）で最高濃度65%溶液による含浸を試みた。ただし、安全上、夜間の加温は止めたため、加温時間は半日となる（一部は半日の加温を繰り返した）。試行錯誤のうえ、半日の65%溶液による加温後、扇風機・ドライヤーによる風乾（冷却・乾燥）の工程とした。大物については加温した65%溶液の塗布によって加温を試みた後、風乾の作業とした。

風乾後も重量変化をみながら、重量が落ち着いた段階でスチームクリーナーを用いた温水による表面処理の工程へと進む。表面処理後、重量が一定となった段階で保存処理は完了となり、そこで再び法量・重量を記録した。

5. 保存処理後の検討

保存処理工程及び完了時の計測結果を一覧表にまとめた。保存処理の結果、体積比（便宜上長×幅×厚の積（立方体体積）の対比）では70%以上の計測値を示す個体が大半であり、参考までに示した保存処理を委託した個体（高級アルコール法）に比べても大きく収縮しているものではないことがわかる。特に杭やしがらみ材については丸太状であることもあり、体積比90%以上のものが多くみられる。その他、板材や角材についても体積比が高いものが多く、樹種同定は



風乾（冷却・乾燥）状況

していないものの、針葉樹が多く用いられていることが要因である可能性がある。重量比についてはおおむね60%以上を示している（委託した個体は処理前の重量を計測しておらず比較できず）。やはり杭や板材、角材などが高い比率を示している傾向があるが、体積比が高く重量比が低い個体もあるので一概にはいえない。おそらく樹種（広葉樹か針葉樹の違い）と組み合わせで検討していく必要がある。

一方、一部の個体で処理中に分裂したり裂け目のできた個体があった。含浸中に分裂するものはなく、風乾から表面処理の工程での乾燥時に起きている（その時点で含浸をやり直す必要があったかもしれない）。主な要因は含浸不足であると想定されるが、工程途中の重量比では顕著な違いが認められないことから、もともとの遺存状況や樹種による性質が影響した可能性も考えられる。ただし、いくつかは冬場に処理していた個体が含まれるため、温度が上がらない期間での処理については注意を要する。

6. おわりに

今回の保存処理については、常温での濃度40%含浸であったが、大量に出土した破片資料や自然木など原因者に負担を求められない範囲における保存処理においては一定の効果があると思われる。実際に今回の保存処理でも多少の収縮はあるものの、展示等に耐える仕上がりになっているものが多い。常温での保存処理であっても自然乾燥やコンテナまたはシーラーパックでの水漬け状態よりもいい状態を維持できるものと思われる。

（仲原 知之）



スチームクリーナーによる表面処理状況

表 和田岩坪遺跡第2次 木製品保存処理一覧

報告 番号	遺物種類	水漬時の法量 (cm, 重量はg) * () は残存量					各工程時の重量 (%は水漬時重量からの比率)										処理後の法量 (cm, 重量はg) * () は残存量					備考		
		長	幅	厚	長×幅×厚	重量	濃度 30% (g)		濃度 40% (g)		風乾 (g)		表面処理前 (g)		表面処理後 (g)		完了時 (g)		長	幅	厚		長×幅×厚	体積比
							濃度	重量	濃度	重量	重量	重量	重量	重量	重量	重量	重量	重量						
W22	加工材(角材)	(56.6)	3.1	1.9	(333.4)	345.00	378.00	109.6%	381.50	110.6%	383.50	111.2%	294.50	85.4%	284.50	82.5%	245.00	71.0%	(56.2)	3.1	1.8	(313.6)	94.1%	
W25	板材	(21.1)	9.1	2.5	(480.0)	378.50	416.50	110.0%	424.50	112.2%	422.00	111.5%	239.00	63.1%	243.00	64.2%	235.00	62.1%	(21.1)	9.1	2.2	(422.4)	88.0%	分裂
W29	角材(棒状)	(33.7)	1.7	1.2	(68.7)	48.65	51.50	105.9%	49.21	101.2%	49.15	101.0%	28.70	59.0%	27.60	56.7%	26.10	53.6%	(33.5)	1.6	0.7	(37.5)	54.6%	
W30	へら状	(28.8)	4.6	2.1	(278.2)	116.56	116.04	99.6%	110.13	94.5%	101.78	87.3%	92.70	79.5%	89.00	76.4%	89.50	76.8%	(28.0)	4.6	1.6	(206.1)	74.1%	最終60%含水
W34	加工材	(18.1)	4.0	1.4	(101.4)	37.40	42.40	113.4%	50.60	135.3%	43.40	116.0%	27.80	74.3%	26.50	70.9%	26.30	70.3%	(18.1)	3.8	0.8	(55.0)	54.3%	
W35	弓または漁具	(56.4)	1.3	1.3	(95.3)	61.56	66.10	107.4%	65.43	106.3%	66.20	107.5%	46.20	75.0%	44.80	72.8%	45.00	73.1%	(56.4)	1.3	1.2	(88.0)	92.3%	分裂
W36	加工材(加工材)	(16.5)	8.1	2.1	(280.7)	164.40	179.50	109.2%	180.70	109.9%	187.50	114.1%	141.20	85.9%	133.60	81.3%	132.00	80.3%	(16.0)	8.0	1.9	(243.2)	86.7%	最終60%含水
W37	加工材(建築部材?)	(12.0)	4.5	3.7	(199.8)	115.72	128.50	111.0%	131.30	113.3%	106.32	91.9%	84.20	72.8%	81.60	70.5%	83.30	72.0%	(10.4)	4.7	2.9	(141.8)	70.9%	最終60%含水
W38	曲物	(17.0)	(4.3)	0.3	21.9	20.10	18.20	90.5%	18.20	90.5%	17.20	85.6%	13.50	67.2%	13.10	65.2%	12.74	63.4%	(14.0)	(3.8)	0.3	16.0	72.8%	
W51	加工材(建築部材?)	(20.6)	(4.7)	1.9	184.0	98.63	109.70	111.2%	103.19	104.6%	87.85	89.1%	67.95	68.9%	67.76	68.7%	63.10	64.0%	(20.4)	(4.9)	1.4	139.9	76.1%	最終60%含水
W52	加工材(平線?)	(38.7)	9.4	1.7	(618.4)	360.50	389.50	108.0%	365.00	101.2%	357.00	99.0%	249.50	69.2%	250.50	69.5%	249.00	69.1%	(31.5)	9.2	1.4	(405.7)	65.6%	
W53	角材	(77.2)	4.6	2.7	958.8	409.00	411.00	100.5%	459.40	112.3%	452.00	110.5%	289.50	70.8%	290.50	71.0%	283.00	69.2%	(77.2)	4.5	2.5	868.5	90.6%	
W60	角材	(29.4)	4.4	4.0	(517.4)	402.50	417.00	103.6%	437.00	108.6%	436.50	108.4%	280.50	69.7%	272.50	67.7%	267.00	66.3%	(29.2)	4.2	3.5	(429.2)	83.0%	
W61	板材	(54.5)	13.1	1.3	928.1	675.50	750.00	111.0%	851.00	126.0%	788.50	116.7%	473.50	70.1%	434.00	64.2%	426.00	63.1%	(53.9)	12.9	1.1	764.8	82.4%	
W62	加工材(楔?)	(9.5)	5.6	2.7	143.6	105.55	118.32	112.1%	116.87	110.7%	91.45	86.6%	66.00	62.5%	64.80	61.4%	63.10	59.8%	(9.0)	5.1	2.0	91.8	63.9%	最終60%含水
W63	加工材(楔?)	(13.1)	5.0	1.3	85.2	49.38	55.28	111.9%	54.68	110.7%	46.52	94.2%	43.24	87.6%	41.35	83.7%	29.92	60.6%	(11.0)	4.2	0.9	43.5	51.1%	最終60%含水
W64	角材	(27.0)	3.5	2.1	(198.5)	159.20	153.40	96.4%	156.70	98.4%	158.70	99.7%	100.00	62.8%	96.20	60.4%	94.20	59.2%	(27.0)	3.5	2.3	(217.3)	109.5%	
W65	加工材(楔?)	(10.6)	6.3	3.3	(220.4)	130.00	142.80	109.8%	145.30	111.8%	144.30	111.0%	76.30	58.7%	76.70	59.0%	74.80	57.5%	(10.7)	6.2	3.0	(199.0)	90.3%	
W66	加工材(楔?)	(8.6)	4.3	2.3	(85.1)	44.60	49.80	111.7%	52.00	116.6%	51.30	115.0%	35.70	80.0%	34.70	77.8%	33.60	75.3%	(8.6)	4.0	2.2	(75.7)	89.0%	
W67	板材	(72.6)	(9.5)	1.6	1103.5	677.00	742.00	109.6%	747.50	110.4%	733.50	108.3%	450.00	66.5%	450.50	66.5%	451.00	66.6%	(72.0)	(9.4)	1.4	947.5	85.9%	最終60%含水
W68	角材	(70.7)	4.4	3.7	(1151.0)	1084.00	1127.00	104.0%	1286.00	118.6%	1169.00	107.8%	773.00	71.3%	747.50	69.0%	734.00	67.7%	(70.7)	4.4	3.7	(1149.4)	99.9%	
W69	加工材(建築部材?)	(30.2)	4.6	3.9	(541.8)	84.20	93.96	111.6%	92.95	110.4%	88.89	105.6%	69.80	82.9%	64.90	77.1%	65.30	77.0%	(29.6)	4.0	3.0	(356.4)	65.8%	最終60%含水
W71	板材	(24.7)	(8.0)	1.5	296.4	167.90	189.00	112.6%	199.00	118.5%	202.50	120.6%	171.50	102.1%	163.80	97.6%	151.80	90.4%	(24.6)	8.0	1.5	295.2	99.6%	最終65%含水
W73	角材	(23.1)	4.2	2.6	(252.3)	170.80	190.50	111.5%	199.00	116.5%	193.10	113.1%	126.30	98.5%	161.60	94.6%	138.00	80.8%	(22.6)	4.1	2.3	213.1	84.8%	最終65%含水
W74	角材	(37.9)	2.5	1.8	(170.6)	116.74	131.50	112.6%	138.50	118.6%	141.50	121.2%	96.00	82.2%	81.01	69.4%	71.50	61.2%	(37.8)	2.4	1.8	(163.3)	95.7%	
W75	板材(紡織具?)	(42.7)	3.5	1.2	(179.3)	104.62	117.30	112.1%	122.30	116.9%	117.50	112.3%	76.50	73.1%	76.70	73.3%	76.70	73.3%	(42.4)	3.5	1.0	(148.4)	82.7%	
W76	板材	(47.5)	6.0	2.3	(655.5)	344.50	390.00	113.2%	404.00	117.3%	395.50	114.8%	241.00	70.0%	232.00	67.3%	229.50	66.6%	(47.0)	5.9	2.1	(582.3)	88.8%	
W77	板材(棒状)	(40.7)	3.7	1.5	(225.9)	120.70	140.00	116.0%	139.90	115.9%	134.80	111.7%	85.85	71.1%	86.11	71.3%	85.20	70.6%	(40.1)	3.6	1.3	(187.7)	83.1%	
W78	角材(小形 棒状)	(29.4)	2.0	1.5	(72.0)	41.90	44.77	106.8%	46.62	111.3%	48.92	116.8%	37.30	89.0%	36.65	87.5%	36.34	86.7%	(29.0)	1.8	1.4	(60.5)	84.8%	最終65%含水
W79	角材(加工材)	(34.0)	(2.2)	1.3	112.7	70.80	81.50	115.1%	80.53	113.7%	87.65	123.8%	71.32	100.7%	61.38	86.7%	57.10	80.0%	(34.1)	(2.2)	1.2	103.2	91.6%	最終65%含水
W80	角材	(27.0)	2.7	2.2	(160.4)	98.60	111.59	113.2%	113.90	115.5%	118.53	120.2%	85.64	86.9%	83.38	84.6%	80.90	82.0%	(27.0)	2.5	2.0	(135.0)	84.2%	最終65%含水
W81	加工材(板材)	(36.5)	(6.5)	(2.8)	(647.9)	317.58	374.00	117.8%	374.00	117.8%	368.50	116.0%	264.00	83.1%	240.00	75.6%	206.50	65.0%	(35.5)	(6.5)	(2.7)	(623.0)	96.2%	
W82	加工材(板材)	(27.6)	4.6	1.9	(241.2)	135.10	152.50	112.9%	148.00	109.5%	138.80	102.7%	106.40	78.8%	103.40	76.5%	102.10	75.6%	(26.3)	4.5	1.9	(224.9)	93.2%	最終65%含水
W83	板材	(17.5)	7.5	2.5	(328.1)	191.50	222.00	115.9%	225.00	117.5%	199.70	104.3%	155.10	81.0%	145.40	75.9%	142.00	74.2%	(17.1)	7.0	2.5	(299.3)	91.2%	最終65%含水
W84	加工材(角材)	(29.6)	5.8	2.4	(412.0)	224.50	253.50	112.9%	263.00	117.1%	257.00	114.5%	175.80	78.3%	164.30	73.2%	144.60	64.4%	(29.1)	5.8	2.4	(405.1)	98.3%	最終65%含水
W85	角材	(53.4)	2.6	1.9	(263.8)	173.50	197.50	113.8%	207.00	119.3%	209.50	120.7%	147.80	85.2%	125.10	72.1%	96.50	55.6%	(53.0)	2.6	1.5	(206.7)	78.4%	
W86	加工材(角材)	(39.4)	3.8	1.6	(239.6)	180.40	204.50	113.4%	205.00	113.6%	200.50	111.1%	116.50	64.4%	116.50	64.4%	114.50	63.5%	(39.4)	3.7	1.6	(233.2)	97.4%	
W87	加工材(加工材)	(23.3)	5.5	1.1	(141.0)	87.80	92.50	105.4%	99.30	113.1%	102.00	116.2%	82.90	94.4%	78.80	89.7%	75.50	86.0%	(23.3)	5.5	0.8	(102.5)	72.7%	最終60%含水
W89	角材(柱状?)	(46.1)	7.3	3.9	(312.5)	845.50	925.00	109.4%	961.00	113.7%	951.50	112.5%	514.00	60.8%	515.50	61.0%	504.00	59.6%	(45.3)	7.3	3.4	(1124.3)	85.7%	
W90	加工材(小形)	(38.3)	6.9	3.9	492.5	275.00	290.00	105.5%	313.50	114.0%	312.00	113.5%	237.00	86.2%	228.00	82.9%	233.00	84.7%	(38.0)	6.5	3.8	444.6	90.2%	最終60%含水
W93	加工材(建築部材?)	(52.8)	5.4	(3.3)	(940.9)	494.50	544.50	110.1%	537.00	108.6%	534.00	108.0%	338.50	68.5%	337.50	68.3%	337.00	68.1%	(52.8)	5.2	(2.2)	(604.0)	64.2%	
W94	板材(薄板)	(19.7)	9.4	1.1	(172.7)	175.50	185.50	105.7%	198.50	113.1%	186.70	106.4%	108.40	61.8%	106.70	60.8%	106.00	60.4%	(16.4)	9.2	1.1	(166.0)	96.1%	
W95	角材(建築部材?)	(16.7)	(4.0)	(3.9)	(307.3)	111.80	119.50	106.9%	130.20	116.6%	129.20	115.6%	104.70	93.0%	100.70	90.1%	95.10	85.1%	(19.4)	4.0	(3.8)	(294.9)	96.0%	最終60%含水
W96	板材(紡織具?)	(33.3)	3.4	1.1	(124.5)	85.20	93.30	109.5%	95.50	112.1%	98.60	115.7%	61.50	72.2%	59.30	69.6%	57.30	67.3%	(33.0)	3.4	1.1	(123.4)	99.1%	
W97	板材(薄板)	(21.5)	5.3	0.7	(79.8)	69.20	75.60	109.2%	80.50	116.3%	75.80	109.5%	47.70	68.9%										

令和7(2025)年度の普及活動

○センター全体に関する普及事業

・「文化財センター情報誌 風車」発刊

今年度は、109号、110号、111号、112号の年4回発刊した。109号として、「特集：大芝遺跡の発掘調査（概要・古代～中世編）」、110号として、「特集：名勝 和歌の浦 東照宮境内石垣及び石階段の保存修理工事」、111号として、「特集：大芝遺跡の発掘調査（縄文時代編）」、112号として、「特集：三郷八幡神社本殿の保存修理工事」を刊行した。

・「和歌山県文化財センター研究紀要」発刊

和歌山県内における文化財に関する調査研究活動等の成果を広く公表する場を提供することで、県民に県内の文化財の学術的評価を周知し、文化財の保存活用に寄与するとともに関係職員等の学術交流、資質向上を図ることを目的として、令和4年度より研究紀要を発刊している。

第4号となる今年度は、研究紀要には、論文2編、研究ノート4編、資料紹介6編、分析報告1編を掲載した。



「和歌山県文化財センター研究紀要 第4号」

・「地宝のひびき—和歌山県内文化財調査報告会—」

令和7年11月8日（土）に御坊市歴史民俗資料館において、近年の文化財調査の成果などを知っていただくため、「—和歌山県内文化財調査報告会—2025 地宝のひびき」と題して開催した。参加者数は27名であった。

報告内容は、「大芝遺跡の調査成果～明らかになる縄文時代の集落と中世の墓～」濱崎範子(当センター)、「八反田遺跡の発掘調査—熊野灘に臨む弥生集落—」小林高太氏(新宮市教育委員会)、「宮井用水とその原像～津秦遺跡第19次調査の成果～」村田裕介氏(公益財団法人元興寺文化財研究所)、「畠山氏一門の居館 金屋土居跡の発掘調査成果」川口修実氏(有田川町教育委員会)、「須賀神社本殿の保存修理～工事の概要と社殿の特長～」下津健太郎(当センター)、「名勝和



地宝のひびき 開催風景



地宝のひびき報告資料集

歌の浦 東照宮境内 石垣及び石階段の保存修理工事／東照宮で見つかった石垣内側の謎の石積み」多井忠嗣・仲原知之（当センター）の6本である。上記に、誌上報告2本の報告を加えて報告会資料集を刊行した。なお、作成した報告会資料集は、関係機関に送付した。

・「和歌山県内文化財調査成果展紀州のあゆみ 2025」

近年に県内で実施された文化財関係の調査成果を県民などに公開することを目的に、御坊市歴史民俗資料館で展示を行った。



紀州のあゆみ 展示解説リーフレット（一部）



紀州のあゆみ 展示の様子

展示を行った遺跡は津秦遺跡（和歌山市）、岡田八幡神社古墳群（海南市）、西飯降Ⅱ遺跡（伊都郡かつらぎ町）、金屋土居跡（有田郡有田川町）、大芝遺跡（日高郡日高川町）、高城山城跡（御坊市）、安宅氏城館跡（西牟婁郡白浜町）、和歌山県指定史跡中世行幸啓御泊所跡（東牟婁郡那智勝浦町）、八反田遺跡（新宮市）、須賀神社（日高郡みなべ町）、名勝和歌の浦 東照宮

（和歌山市）の保存修理等の写真パネルである。今回はミニコーナー「日高郡の縄文遺跡」と称し、和佐遺跡、古垣内遺跡（日高郡日高川町）、徳蔵地区遺跡（日高郡みなべ町）、の出土遺物を展示した。

展示期間は令和7年10月11日（土）～11月16日（日）、来館者は232名であった。

○埋蔵文化財に関する普及事業

・研修

「令和7年度和歌山県埋蔵文化財専門研修(技術研修)」

・談話会

「談話会～文化財にまつわるお仕事ってどんなコト?～」

・発掘調査報告会・現地説明会

「大芝遺跡発掘調査」

・「令和7年度第14回風土記まつり」

・「関西考古学の日2025」関連事業 スタンプラリー

令和7年度和歌山県埋蔵文化財専門研修（技術研修）

令和7年12月11日（木）、12日（金）に、県教育委員会と協働して、若手の県内文化財担当職員等を対象に発掘調査技術を習得することを目的とした研修を開催した。

発掘調査について、山本光俊氏（和歌山県教育庁文化遺産課）、仲原知之（当センター）が講義し、発掘調査の実習を行った。

談話会～文化財にまつわるお仕事ってどんなコト?～

県内在住・通学の中学生、高校生を対象に文化財に関する仕事の紹介や参加者の疑問質問に答え、地域の文化財への理解を深める目的で、令和7年7月21



談話会 開催の様子

日談話会（月・祝）、和歌山県立紀伊風土記の丘資料館研修室で実施した。参加者は2名であった。

発掘調査報告会・現地説明会

遺跡の発掘調査を広く一般の方々に周知するため、発掘調査の報告会や現地説明会を開催した。

各現場の発掘調査担当者による遺跡の解説を行い、地元の方を中心に参加者を得ることができた。報告会等を開催した遺跡と開催日及び参加者は、以下の通りである。

【報告会】

- ・大芝遺跡 令和7年5月17日（土）参加者30名
（於：佐井集会場）



大芝遺跡発掘調査報告会 開催の様子

【令和7年度第14回風土記まつり】

「風土記まつり」は、ものづくり体験や風土記の丘競技会などのプログラムを通じ、県立紀伊風土記の丘へ来館する機会が少ない県民の来園機会の創出、さらに特別史跡岩橋千塚古墳群をはじめとする文化財や文化体験に親しむ契機の創出を目的として、平成22年



風土記まつり 当センター ブースの様子

度より開催されている。

今年度は令和7年10月26日（日）に開催され、当センターは「拓本体験」を計画し、まつりに参加した。当日、体験参加者55名であった。

○文化財建造物に関する普及事業

文化財建造物の保存修理現場では、所有者・地元教育委員会が開催する現場見学会等に協力し、建物や工事の内容について解説を行った。

また、現場では施工状況の説明を通して、文化財保全について関係者や近隣住民の理解が深まるように努めた。参加者には修理概要を伝えるリーフレットを作成および配布し、工事期間においては仮設正面や社務所等に実施状況を説明する資料を掲示した。



三郷八幡神社見学会での様子

文化財に関わる研修事業に協力し、和歌山県内における工事の内容や建物の特徴について解説を行った。県内の地域文化に関する講座に講師を派遣するなど、文化財建造物保存修理事業に伴う調査成果に基づいた知見を広く県民に還元した。



金剛峯寺不動堂での研修対応（令和7年度養成教育）

(公財)和歌山県文化財センター 令和7(2025)年度 概要

I 受託業務

埋蔵文化財発掘調査等受託業務	0件
埋蔵文化財出土遺物等整理受託業務	1件
埋蔵文化財発掘調査支援等受託業務	2件
埋蔵文化財確認調査支援等受託業務	9件
埋蔵文化財遺物整理支援等受託業務	4件
文化財計画策定・調査事業	3件
文化財建造物保存修理技術指導業務等	22件

II 理事会・調査委員会・会議など

理事会・評議員会

理事会	07.06.11	アバローム紀の国
評議員会	07.06.27	アバローム紀の国
理事会	07.12.05	アバローム紀の国
理事会	08.03.24	アバローム紀の国

埋蔵文化財関係会議

令和7年度第1回(第71回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック主催者会議	07.06.06	向日市永守重信市民会館
第46回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	07.06.12-13	愛知県名古屋市、清須市、瀬戸市、刈谷市、豊田市
第39回令和7年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック事務担当者会議	07.10.24	公益財団法人元興寺文化財研究所 総合文化財センター
令和7年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	07.11.06-07	高知県高知市
令和7年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック研修会	07.12.12	京都市考古資料館
令和7年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿地区デジタル技術等活用推進委員会	08.02.04	長岡京市中央生涯学習センター
令和7年度第2回(第72回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック主催者会議	08.02.06	向日市永守重信市民会館
令和7年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 デジタル技術等活用推進委員会	08.02.18	オンライン開催
令和7年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック会議	08.02.20	向日市永守重信市民会館

文化財建造物関係会議

令和7年度重要文化財建造物保存修理事業等監督者会議	07.04.10	主催：文化庁
令和7年度文化財建造物保存事業幹部技術者研修会	07.04.11	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会
文化財建造物の耐震対策に係る講習会	07.07.16	主催：文化庁
令和7年度文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会(第71回)	07.10.20	主催：文化庁
令和7年度文化財建造物保存事業主任技術者研修会	07.10.21-22	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会
令和7年度文化財建造物保存事業中堅技術者研修会	07.10.27-30	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会
令和7年度文化財建造物修理技術公開セミナー	07.12.12	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会

委員委嘱

濱崎 範子 由良町文化財保護審議会委員	07.04.01-09.03.31	由良町教育委員会	07.03.12 付依頼
多井 忠嗣 海南市文化財保護審議会委員	07.06.01-08.03.31	海南市教育委員会	07.05.21 付依頼
多井 忠嗣 名勝南方曼荼羅の風景地保存活用計画策定委員会委員	07.11.01-08.03.31	田辺市教育委員会	07.10.31 付依頼

III 講師派遣・執筆など

埋蔵文化財課関係

濱崎 範子「日高川町 大芝遺跡の発掘調査について」発表「御坊市文化財研究会」	07.06.07	於：御坊市中央公民館3階研修室
濱崎 範子「考古学会ニュース 和歌山県 大芝遺跡で縄文時代の竪穴建物群、県内最多」『季刊考古学』172号	07.07	発行
濱崎 範子「奈良文化財研究所研修受講報告」報告「令和7年度記念物・埋蔵文化財担当者基礎研修(担当者会議)並びに専門研修」	07.12.02	於：和歌山県庁南別館5階 職員研修所
濱崎 範子「大芝遺跡の調査成果」発表「関西縄文文化研究会」	08.01.24	於：(公財)和歌山県文化財センター
濱崎 範子「古墳の墳丘測量」助言等	08.02.13	於：日高郡日高町 向山古墳群
濱崎 範子「大型災害に対する文化財への備え」『由良の文化財』	08.03	発行

文化財建造物課関係

- 下津 健太郎・大給 友樹・野田 達志「耐久高校卒業生に向けた重要文化財濱口家住宅見学会」解説、設営補助 07.06.29 於：濱口家住宅
 多井 忠嗣「文化遺産の保護に資する研修（集団研修）木造建造物の保存と修理」講師 07.09.04,09.22-25 於：東大寺、談山神社等
 下津 健太郎「三郷八幡神社本殿改修工事完了に伴う見学会」解説 07.10.19 於：三郷八幡神社
 寺本 就一「県指定文化財力侍神社ほか修理現場見学会」解説 07.10.30,11.04 於：力侍神社
 大給 友樹「令和7年度打田地区公民館 公民館講座 第8回」講師 08.01.20 於：打田地区公民館
 大給 友樹「いなむらまち歩きの会 濱口家住宅保存修理事業についての講話」講師 08.03.18 於：いなむらの社
 下津 健太郎「重要文化財三郷八幡神社本殿―事業の紹介と昭和解体修理へのアプローチ」『文建協通信 162号』 07.10 発行
 大給 友樹「重要文化財濱口家住宅主屋ほか 11棟―世代をつなぐ建造物群と屋敷地の紹介―」『文建協通信 162号』 07.10 発行

IV 刊行図書・出版物等

年報・紀要

- 『公益財団法人和歌山県文化財センター年報 2024』 07.05.30 発行
 『和歌山県文化財センター研究紀要 第4号』 08.03.31 発行

埋蔵文化財課関係

現地説明会・現地公開資料

- 「大芝遺跡 発掘調査報告会資料」 07.05.17 発行

報告会・シンポジウム資料等

- 『和歌山県内文化財調査成果展 紀州のあゆみ』展示解説リーフレット 07.10.11 発行
 『地宝のひびき―和歌山県内文化財調査報告会 2025―』資料集 07.11.08 発行

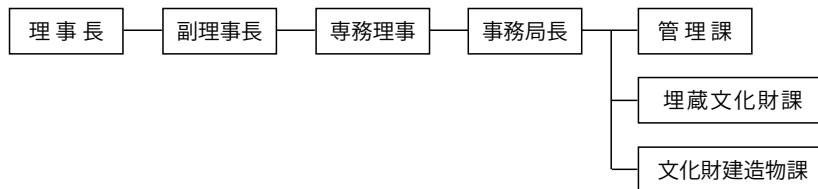
『風車』紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌『かざぐるま』

- 風車 109 2025 夏号 特集「大芝遺跡の発掘調査（概要・古代～中世編）」 07.06.30 発行
 風車 110 2025 秋号 特集「名勝 和歌の浦 東照宮境内石垣及び石階段の保存修理工事」 07.09.30 発行
 風車 111 2025 冬号 特集「大芝遺跡の発掘調査（縄文時代編）」 07.12.26 発行
 風車 112 2026 春号 特集「三郷八幡神社本殿の保存修理工事」 08.03.31 発行

V 組織

組織図



役員（理事）

理事長	櫻井 敏雄	元近畿大学 教授（～08.03.31）
副理事長	今西 宏行	和歌山県教育委員会 教育長
専務理事	井口 好晴	元和歌山県人事委員会 事務局長
理事	有坂 道子	京都橘大学教授
理事	逸木 盛俊	宗教法人粉河寺 代表役員
理事	小野 健吉	大阪観光大学観光学部 特任教授（～08.03.31）
理事	九鬼 家隆	和歌山県神社庁長、宗教法人熊野本宮大社代表役員
理事	中村 浩道	大阪大谷大学 名誉教授
理事	林 宏	元一般社団法人和歌山県文化財研究会 会長
理事	増渕 徹	和歌山県立紀伊風土記の丘 館長

役員（監事）

監事	風神 正典	税理士法人・風神会計事務所 代表社員・税理士
監事	吉田 雅彦	和歌山県教育庁生涯学習局 局長（～08.03.31）

評議員

東 松生	和歌山県立博物館 副館長
小野 俊成	宗教法人道成寺 代表役員

佐々木公平	宗教法人広八幡宮 代表役員
佐藤 亜聖	滋賀県立大学教授
新谷 和之	近畿大学 准教授
関本愉香子	和歌山県教育庁 文化遺産課長
千森 督子	和歌山信愛大学 客員教授
西口 治伸	和歌山県立紀伊風土記の丘 副館長
日向 進	京都工芸繊維大学 名誉教授

職員

事務局 長 森 敦久（～ 08.03.31）

管理課
 課長 松尾 克人
 主査 出口 由香子
 主事 池田 優仁

埋蔵文化財課
 課長 仲原 知之
 副主査 田之上 裕子（～ 07.12.31）
 副主査 濱崎 範子
 技師 石丸 彩

文化財建造物課
 課長 多井 忠嗣
 主査 下津 健太郎
 副主査 寺本 就一
 副主査 大給 友樹
 技師 野田 達志

表紙図案

表紙右上 大芝遺跡出土石製品（石鏃）
 表紙下 力侍神社 正面図

公益財団法人
和歌山県文化財センター年報
2025

2026年5月29日

【発行】

公益財団法人 和歌山県文化財センター

〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1

TEL 073-472-3710

FAX 073-474-2270

<http://www.wabunse.or.jp/>

E-mail kanri-2@wabunse.or.jp

公式インスタグラム

ユーザーネーム：wabunse_official

【印刷】

株式会社 協和

(公財) 和歌山県文化財センター
<http://www.wabunse.or.jp>